

XI 各授業科目及び履修に関する注意事項

1. 「大学での学び」基礎論

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
「大学での学び」基礎論	講義	1	全学部

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

(1) 履修

- ・全学部必修（法学部のみ選択必修）
- ・「履修手続きに関する注意事項」に従い、履修登録してください。

(2) 時間割

- ・I期 火曜3限 対象：工学部
 - ・I期 木曜2限 対象：情報学部（自然・コン）、理学部、医学部、農学部
 - ・I期 木曜3限 対象：文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部（人社）
- （注）対象学部以外に開講されている授業は、受講できません。

(3) 授業内容

大学生として求められる知識・知恵・見識を入学当初に学ぶ機会として、複数のテーマを設定しています。これらすべてのテーマを受講することが必要です。

授業はオムニバス形式で、講義室で行う対面授業と電子教材によるオンデマンド型授業により行います。

< 2025 年度 >

- | | |
|------------------------|---------------|
| ① 学生生活に関する特別講義 | 【オンデマンド型授業】 |
| ① 大学の歩き方—知識の森で迷ったら— | 【対面授業】 ※1 |
| ② ICT 利活用と情報セキュリティ | } 【オンデマンド型授業】 |
| ③ 名古屋大学の歴史 | |
| ④ キャリア形成 | |
| ⑤ 名大生のためのアントレプレナーシップ教育 | |
| ⑥ 名大生のための留学講座 | |
| ⑦ ジェンダー学入門 | |
| ⑧ 社会安全学 | |
| ⑨ 知的財産権の基礎 | |

※1 ①は対面授業を3回実施します。

対面授業の詳細は [TACT](#) によりお知らせする予定です。

(4) 再履修

I期に修得できなかった場合は、II期に開講予定の同一名称の授業（再履修クラス）を再度受講して単位を修得しなければなりません。

再履修クラスには、自動で履修登録されます。

2. 基礎セミナー

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
基礎セミナー	演習	2	全学部（医学部医学科以外）
基礎セミナーA	演習	2	医学部医学科のみ
基礎セミナーB	演習	2	医学部医学科のみ

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

科目名	開講時期	対象学部・学科												
		文学部 教育学部 法学部 経済学部 情報(人社)	情報学部		理学部	医学部		工学部				農学部		
			自然	コン		医	保健	化生	物工 エネ	マテ 土建	電情 機航	環境 資生	生命	
基礎セミナー (文理融合クラス)	I期	月曜4限	○			○			○		○	○	○	
		月曜5限	○	○	○	○			○		○	○	○	
		火曜4限	○		○			○		○				○
		火曜5限	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○
		木曜5限	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○
基礎セミナーA	I期	金曜4限					○							
基礎セミナーB	II期	金曜3限					○							

(注1) 対象学部以外に開講されている基礎セミナーは、受講できません。

(注2) 上記のほか、全学部向けにI期集中(夏季休業中)に、岐阜大学と連携して、基礎セミナーの開講を予定しています。(夏期集中クラスの基礎セミナーは、医学部医学科では卒業要件に算入されません。)

(注3) 日本語を履修する学生(外国人留学生に限る)木曜5限「日本語口頭表現法」を履修する必要があるため、履修登録の際、木曜5限以外の基礎セミナーを希望して登録してください。万一、木曜5限の基礎セミナーに割り振られた場合は、至急教養教育院事務室へ相談してください。

(1) 受講希望調査

- ① 各基礎セミナーは、各クラス15名以下です。(医学部医学科対象の「基礎セミナーA」「基礎セミナーB」は12名以下。以下同じ。)
- ② ガイダンス前にシラバスにより希望するテーマ(授業)をよく考えておいてください。
[名古屋大学ポータル](#)の「教養教育院」ページに基礎セミナーのテーマの一覧を掲載します。併せて参照してください。
- ③ 履修登録の際、希望するテーマを最大6つまで選択してください。

(2) 受講調整と調整結果

- ① 受講調整は、受講希望に基づいて、受講者数制限(定員15名)まで割り振り、どの基礎セミナーに所属するかを決定します。
その際、希望するテーマ(授業)で調整できなかった場合は、他のテーマに割り振られます。
- ② 一度決定されたテーマからの変更及び辞退は、原則としてできません。

【希望するクラスを受講するためのティップス】

時間割で4限のクラスは受講希望者が多い傾向です。同じ時間帯に集中して選択することなく、曜日・時限を分散して登録することをお勧めします。

(3) 単位補充（医学部医学科を除く）

基礎セミナーで単位を修得できなかった場合は、次年度で修得することになります。

(4) 医学部医学科の学生の単位補充

基礎セミナーA及び基礎セミナーBで単位を修得できなかった場合は、それぞれ次年度の基礎セミナーA及びBで修得することになります。

3. 言語文化科目

(1) 外国語の履修について

① 言語文化科目の概略

名古屋大学では、全学教育科目の中の一区分である「言語文化科目」として、外国語の授業を開講しています。言語文化教育は、コミュニケーションツール、リサーチツールとして活用することが可能となるよう言語教育の有効性と効率化を図るとともに、異文化理解と異文化との共生の素養を培うことにより、国際感覚を備えた人材を養成することを目標としています。また、英語では、国際基準の英語力を育成し、学術論文の読解力と論文執筆能力、さらに、聴解と会話を含めたプレゼンテーション能力を養成することを目指しています。

■言語文化科目の言語

英語

初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）

※このほか、随意科目（卒業要件に算入されない）として、イタリア語、ポルトガル語の科目を開講

日本語（外国人留学生対象）

■開講時間

「学部指定オビ」：I期からIV期までの学部ごとに指定された時間帯で、通常はこの時間帯に履修します。

「学部指定オビ以外」：単位補充や自ら学びたい学生のため上記の言語の授業が提供されています。

② 学部別「言語文化科目」履修の指針

「X 学部・学科別授業科目区分ごとの履修基準一覧」で示している卒業要件や進級要件単位数のほか、学部別に在学中に履修することが望ましい外国語について定めている内容を紹介します。

【文 学 部】

2年次から分属する各分野・専門における学修のため、英語のほかに特定の外国語を履修しておくことが望ましい分野・専門と該当する外国語を次の表で示しています。初修外国語を履修するにあたり、次の表を参考として選んでください。

ただし、上記のどの外国語を履修しても、いずれの分野・専門にも進むことができます（分野・専門の分属について疑問のある場合には、各分野・専門の教員へ問い合わせてください）。

分野・専門	各分野・専門において履修が望ましい初修外国語
言 語 学	特に指定がない
日 本 語 学	特に指定がない
日 本 文 学	特に指定がない
英 語 学	ドイツ語、フランス語、スペイン語
英 米 文 学	ドイツ語、フランス語
ド イ ツ 語 ド イ ツ 文 学	ドイツ語
ド イ ツ 語 圏 文 化 学	ドイツ語
フ ラ ン ス 語 フ ラ ン ス 文 学	フランス語
中 国 語 中 国 文 学	中国語
哲 学	ドイツ語、フランス語
西 洋 古 典 学	ドイツ語、フランス語
中 国 哲 学	中国語
イ ン ド 哲 学	特に指定がない

日 本 史 学	特に指定がない
東 洋 史 学	中国語
西 洋 史 学	ドイツ語, フランス語
美 学 美 術 史 学	ドイツ語, フランス語, 中国語
考 古 学	ドイツ語, フランス語, スペイン語, 中国語, 朝鮮・韓国語
文 化 人 類 学	特に指定がない
社 会 学	ドイツ語, フランス語
心 理 学	特に指定がない
地 理 学	特に指定がない

※英語以外の、履修が望ましい外国語が複数示されている場合には、各自の関心に合わせて履修外国語を決めるようにしてください。

履修する外国語についてわからないことがあったら、各自、分属を希望する分野・専門の教員へ問い合わせてください。

【教育学部】

人間発達科学の勉学と研究のためには、専攻領域のいかににかかわらず、2か国語以上の外国語能力が必要です。

卒業に必要な言語文化科目の単位は、これらの単位は2年終了までに修得することが望ましいです。

【法学部】

指定なし。

【経済学部】

指定なし。

【情報学部】

情報学部は、それぞれに特色を持つ3つの学科から構成されているため、学科によって、修得科目及び単位数を異にしています。

各学科で示されている言語文化科目の卒業要件は、最小限の外国語の履修であり、卒業後において幅広い活躍をするためにも、このほかに選択しなかった外国語やさらに上級の外国語を履修するようにしてください。

【理学部】

言語文化科目の卒業要件は最小限の外国語の履修です。本学部における学習・研究には、英語を始めとする外国語の力が不可欠であり、上記の必要単位のほかに外国語をできる限り履修するようにしてください。

【医学部】

指定なし。

【工学部】

工学部における学習・研究には、専攻分野にかかわらず外国語の力が極めて重要です。単に単位を修得することにとどまらず、実質的に語学力の涵養に努めることが大切です。

【農学部】

農学部における学習・研究のためにも、また、卒業後、社会人として活躍するためにも、外国語は非常に重要です。

(2) 英語

【授業科目表】

授 業 科 目		単位数	備 考
英語 (基礎)	演習	2	
英語 (中級)	演習	2	
英語 (コミュニケーション)	演習	2	
英語 (上級)	演習	2	
英語 (セミナー)	演習	2	
英語 (上級リーディング) 1	演習	1	
英語 (上級リーディング) 2	演習	1	
英語 (サバイバル)	演習	1	随意科目
特別英語セミナー (資格試験英語)	演習	2	随意科目
特別英語セミナー (A 類)	演習	2	随意科目
特別英語セミナー (B 類)	演習	2	随意科目
特別英語セミナー (C 類)	演習	2	随意科目

【開講の目的】

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



【特色】

① 少人数教育

「英語 (基礎)」, 「英語 (中級)」, 「英語 (上級リーディング)」, 「英語 (サバイバル)」は 40 名規模, 「英語 (上級)」は 20 名規模, 「英語 (コミュニケーション)」, 「英語 (セミナー)」は 24 名規模でクラス編成をし, 高い教育効果をめざしたきめ細かな教育を実施しています。

② 生きた外国語教育

外国語母語話者を積極的に任用し, フェイストゥフェイスで生きた外国語に接しうるよう環境整備をはかっています。

③ 習熟度別コース編成, 段階別クラス編成

入学時に実施されるプレイスメント・テストにより, A, Pre-A, B, C コースの習熟度別コース編成を行っています。また, 学生は, 「英語 (サバイバル)」(C コースのみ), 「英語 (基礎)」, 「英語 (中級)」, 「英語 (コミュニケーション)」等の授業を段階別に受講します。

④ 検定試験の活用

入学時と 1 年秋学期に TOEFL ITP 試験の一斉受験を行います。また, 英語検定試験の結果によって, 単位を認定する「検定試験による単位認定制度」を設けています。

⑤ eラーニング教材の活用

課外学習として, また, 一部授業では授業内において, eラーニング教材を活用し, 学習量の増加をはかるとともに, 自律的な学習習慣を育てています。

【履修に関する注意事項】

① 入学時の履修手続き

【英語 (基礎)】

入学時のプレイスメント・テスト (TOEFL ITP 試験) の結果により, A コース, Pre-A コース, B コース (C コース含む) に分かれて受講します。受講する授業は, 教養教育院で受講調整を行い, 決定され

ます。

入学後、次のスケジュールになります。

日にち	内容
4月3日(木)	TOEFL ITP 試験を受験(全員) 詳細は アカデミック・イングリッシュ支援室のホームページ に掲載します。
4月16日(水)	英語(基礎)の受講クラス決定(医学部医学科のA及びPre-Aコースを除く。) 名古屋大学ポータル の「教養教育院」ページに掲載 ※決定された授業からの変更はできません。 (「英語(サバイバル)」の受講者と受講クラスも同時に掲載します。)
4月16日(水) ~22日(火)	受講クラスごとに指定された教科書を購入(生協等で購入)
4月10日(木)~	授業開始 ※1年生の英語の授業だけは、第2週目の4月17日(木)から始まります。

【英語(サバイバル)】

プレイスメント・テストでCコースとなった学生だけが受講する授業です。この授業は、該当学生を学生番号順に各授業に振り分けます。

4月16日(水)に、[名古屋大学ポータル](#)の「教養教育院」ページで、「英語(サバイバル)」のクラス別対象者を掲載するので、新入生のみなさんは全員、自分が「英語(サバイバル)」の授業を受講する必要があるか、また、受講する場合に、どのクラスに入るかを確認してください。

② 学部・学科別履修パターン

文学部

コース	I期	II期	III期	IV期	備考
A	英語(基礎)	英語(中級) 英語(コミュニケーション)	英語(上級) 英語(上級リーディング)1	英語(上級リーディング)2	卒業単位として、 英語(基礎)2単位、 英語(中級)2単位、 英語(コミュニケーション)2単位、 英語(上級)2単位、 英語(上級リーディング)計2単位 が必要
Pre-A	英語(基礎)	英語(中級) 英語(コミュニケーション)	英語(上級) 英語(上級リーディング)1	英語(上級リーディング)2	
B ※C含む	英語(基礎) 英語(サバイバル) ※Cのみ	英語(中級) 英語(コミュニケーション)	英語(上級) 英語(上級リーディング)1	英語(上級リーディング)2	

教育学部, 法学部, 経済学部

コース	I期	II期	III期	IV期	備考
A	英語(基礎)	英語(中級) 英語(コミュニケーション)	英語(上級)	英語(セミナー)	卒業単位として、 英語(基礎)2単位、 英語(中級)2単位、 英語(コミュニケーション)2単位、 英語(上級)2単位、 英語(セミナー)2単位 が必要
Pre-A	英語(基礎)	英語(中級) 英語(コミュニケーション)	英語(上級)	英語(セミナー)	
B ※C含む	英語(基礎) 英語(サバイバル) ※Cのみ	英語(中級) 英語(コミュニケーション)	英語(上級)	英語(セミナー)	

情報学部, 理学部, 医学部 (保健学科), 工学部

コース	I 期	II 期	III 期	備考
A	英語 (基礎)	英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)	英語 (上級)	卒業単位として, 英語 (基礎) 2 単位, 英語 (中級) 2 単位, 英語 (コミュニケーション) 2 単位, 英語 (上級) 2 単位 が必要
Pre-A	英語 (基礎)	英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)	英語 (上級)	
B ※C 含む	英語 (基礎) 英語 (サバイバル) ※C のみ	英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)	英語 (上級)	

医学部 (医学科)

コース	I 期	II 期	III 期	IV 期	備考
A	—	英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)	英語 (上級)	英語 (セミナー) 【随意科目】	卒業単位として, 英語 (中級) 2 単位, 英語 (コミュニケーション) 2 単位, 英語 (上級) 2 単位 が必要
Pre-A	—	英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)	英語 (上級)	英語 (セミナー) 【随意科目】	
B ※C 含む	英語 (基礎) 注 英語 (サバイバル) ※C のみ	英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)	英語 (上級)	英語 (セミナー) 【随意科目】	

注 「英語 (基礎)」は卒業要件には算入されませんが、B 及び C コースの場合、クラス分けの対象になります。今後の英語学習のため、履修を強く推奨します。

農学部

コース	I 期	II 期	III 期	IV 期	備考
A	英語 (基礎)	英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)	英語 (上級)	英語 (セミナー) 【随意科目】	卒業単位として, 英語 (基礎) 2 単位, 英語 (中級) 2 単位, 英語 (コミュニケーション) 2 単位, 英語 (上級) 2 単位 が必要
Pre-A	英語 (基礎)	英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)	英語 (上級)	英語 (セミナー) 【随意科目】	
B ※C 含む	英語 (基礎) 英語 (サバイバル) ※C のみ	英語 (中級) 英語 (コミュニケーション)	英語 (上級)	英語 (セミナー) 【随意科目】	

③ 各科目の紹介

1) 「英語 (サバイバル)」 受講定員：原則 40 名，1 単位

C コース学生のみが受講します。

成績評価は「P」又は「NP」によってなされ、修得単位は卒業に必要な単位に認定されません。

C コースの学生はこの授業に「合格(P)」しないと 2 年次の「英語」授業を受講できません。「不合格(NP)」評価を得た場合は、「英語 (サバイバル)」を再度履修して「合格」評価を得なければなりません。

2) 「英語 (基礎)」・「英語 (中級)」 受講定員：原則 40 名，2 単位

A コース，Pre-A コース，B コース (C コース含む) に分かれて受講します。受講する授業を選択することなく、指定された授業を履修します。

「英語 (基礎)」と「英語 (中級)」は同じコースで受講しますが、A コース，Pre-A コースの「英語 (基礎)」で成績評価が「F」又は「W」だった場合、「英語 (中級)」は B コースのクラスを指定され

ます。

「英語（基礎）」でBコースだった学生のうち希望者を対象にⅡ期開始前に「Pre-A コース編入テスト」が実施されます。受験者のうち、成績優秀者は「英語（中級）」をPre-A コースで受講します。詳細は、別途[名古屋大学ポータル](#)でお知らせします。

- 3) 「英語（コミュニケーション）」・「英語（セミナー）」受講定員：原則 24 名，2 単位
対象学部，あるいは複数の指定クラス内（工学部）で受講するクラスを選択します。指定クラス以外の授業を受講することはできません。
- 4) 「英語（上級）」受講定員：原則 20 名，2 単位
対象学部，あるいは複数の指定クラス内（工学部）で受講するクラスを選択します。指定クラス以外の授業を受講することはできません。
- 5) 「英語（上級リーディング）」受講定員：原則 40 名，1 単位
文学部対象のクラス内で受講するクラスを選択します。
- 6) 「特別英語セミナー」受講定員：原則 20 名，2 単位
「特別英語セミナー（資格試験英語）」春学期開講，受講対象 1 年次以上
「特別英語セミナー（A 類）」「特別英語セミナー（B 類）」「特別英語セミナー（C 類）」春学期・秋学期開講，受講対象 3 年次以上
英語を深く学びたい学生向けの科目です。
いずれも随意科目であり，卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

④ 各期に受講できる単位数の上限（上記③各科目の紹介における 2）～6）が対象）

学部	I 期	Ⅱ期	Ⅲ期
文学部	2 単位	6 単位－[I 期の修得単位数]	9 単位－[I 期，Ⅱ期の修得単位数]
教育学部，法学部，経済学部，情報学部，理学部，医学部（保），工学部，農学部	2 単位	6 単位－[I 期の修得単位数]	8 単位－[I 期，Ⅱ期の修得単位数]
医学部（医）	－ B コースで英語（基礎）を受講した者を除く。	4 単位	6 単位－[Ⅱ期の修得単位数]

Ⅳ期以降は，不足単位数分のみ受講できます。

⑤ 再履修

卒業に必要な単位を取得できなかった場合は，同一名称の授業を再度履修するか，又は同一名称授業の単位補充クラスを受講して単位を取得しなければなりません。

〔「英語（上級リーディング）1」又は「英語（上級リーディング）2」の注意事項〕

単位を取得できなかった場合は，「英語（上級リーディング）1」又は「英語（上級リーディング）2」を履修することによって，またはどちらかを複数履修することによって，卒業に必要な単位を取得しなければなりません。同一教科書による授業を 2 つ受講しても，単位は認められません。

〔「英語（サバイバル）」の注意事項〕

春学期に受講して学期末試験を受けても成績が不足し「不合格（NP）」となった場合，学年末に実施される再試験を受験することができます。秋学期に e ラーニングでの自習を行ない，その達成点と再試験の得点の合算が基準点に達することで合格認定を受けることができます。

⑥ 単位補充クラス

1) 「英語（基礎）」、「英語（中級）」、「英語（コミュニケーション）」、「英語（上級）」の場合

単位補充クラスは、直前の期に開講された通常の授業の単位を補充するためのものです。そのため、通常の授業を履修せずに単位補充クラスを受講することはできません。

通常の授業で成績が「F」であった場合のみ、次の期に開講される当該科目の単位補充クラスを受講できます。

通常の授業を5回以上欠席して「W」となった場合、次の期に開講される当該科目の単位補充クラスの授業を受ける資格を失います。次の次の期（1年後）に開講される通常の授業を必ず再履修してください。

同一科目の単位補充クラスを複数履修登録した場合、いずれの登録も削除され、履修不可となります。単位補充クラスを受講する場合は、「履修手続きに関する注意事項」の手順に従って履修登録を行わなければ、当該学期に履修することはできません。

さらに、単位補充クラスを受講しても成績が「F」であったり、5回以上欠席して「W」となった場合は、次の期に開講される通常の授業を必ず再履修してください。

2) 「英語（セミナー）」、「英語（上級リーディング）1」、「英語（上級リーディング）2」の場合

単位補充クラスはありません。「英語（セミナー）」は翌年の秋学期に開講される当該科目を再履修してください。「英語（上級リーディング）1」、「英語（上級リーディング）2」については、⑤再履修を参照してください。

⑦ 注意点

1) 単位取得が遅れると進級・卒業に支障をきたす場合があります。所属する学部の進級・卒業要件をよく確認し、計画的に履修してください。最終学年まで単位補充を先延ばししないでください。

2) 履修登録でミスをしないように、「履修手続きに関する注意事項」を事前によく読んでください。初回の授業には必ず出席してください。

⑧ 履修相談

〔英語〕金 相美 教員 (E-mail : kim.sangmi.d0@f.mail.nagoya-u.ac.jp)

(3) 初修外国語

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
多言語修得基礎	演習	1	
ドイツ語基礎1	演習	2	
ドイツ語基礎2	演習	2	
ドイツ語初級完成	演習	2	
ドイツ語中級1	演習	2	
ドイツ語中級2	演習	2	
ドイツ語中級	演習	2	
ドイツ語上級	演習	2	
フランス語基礎1	演習	2	
フランス語基礎2	演習	2	
フランス語初級完成	演習	2	
フランス語中級1	演習	2	
フランス語中級2	演習	2	
フランス語中級	演習	2	
フランス語上級	演習	2	
ロシア語基礎1	演習	2	
ロシア語基礎2	演習	2	
ロシア語初級完成	演習	2	
ロシア語中級1	演習	2	
ロシア語中級2	演習	2	
ロシア語中級	演習	2	
ロシア語上級	演習	2	
中国語基礎1	演習	2	
中国語基礎2	演習	2	
中国語初級完成	演習	2	
中国語中級1	演習	2	
中国語中級2	演習	2	
中国語中級	演習	2	
中国語上級	演習	2	
スペイン語基礎1	演習	2	
スペイン語基礎2	演習	2	
スペイン語初級完成	演習	2	
スペイン語中級1	演習	2	
スペイン語中級2	演習	2	
スペイン語中級	演習	2	
スペイン語上級	演習	2	
朝鮮・韓国語基礎1	演習	2	
朝鮮・韓国語基礎2	演習	2	
朝鮮・韓国語初級完成	演習	2	
朝鮮・韓国語中級1	演習	2	
朝鮮・韓国語中級2	演習	2	
朝鮮・韓国語中級	演習	2	
朝鮮・韓国語上級	演習	2	
イタリア語基礎1	演習	2	随意科目
イタリア語基礎2	演習	2	随意科目

ポルトガル語基礎 1	演習	2	随意科目
ポルトガル語基礎 2	演習	2	随意科目

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

① 学部・学科別履修パターン

※初修外国語（ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、スペイン語、朝鮮・韓国語）の1言語については、以下【初修外国語】と表記します。

文学部, 教育学部, 法学部, 情報学部（人間・社会情報学科）

I期	II期	III期	IV期
【初修外国語】基礎 1 【初修外国語】基礎 2	【初修外国語】初級完成	【初修外国語】中級 1	【初修外国語】中級 2

※V期以降，【初修外国語】上級を随意科目として受講できます。

経済学部

I期	II期	III期	IV期
多言語修得基礎	【初修外国語】基礎 1 【初修外国語】基礎 2	【初修外国語】初級完成	【初修外国語】中級

※V期以降，【初修外国語】中級 2，【初修外国語】上級を随意科目として受講できます。

情報学部（自然情報学科, コンピュータ科学科）, 医学部, 工学部

I期	II期
多言語修得基礎	【初修外国語】基礎 1 【初修外国語】基礎 2

※III期以降，【初修外国語】初級完成～上級の各科目を随意科目として受講できます。

理学部

I期
多言語修得基礎

※II期以降，【初修外国語】基礎 1～上級の各科目を随意科目として受講できます。

【初修外国語】基礎 1，基礎 2 は卒業要件に算入されませんが，進級要件単位として扱います。

農学部

I期	II期
【初修外国語】基礎 1 【初修外国語】基礎 2	【初修外国語】初級完成

※III期以降，【初修外国語】中級 1～上級の各科目を随意科目として受講できます。

② 初修外国語の各言語について

卒業に必要な初修外国語として，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，スペイン語，朝鮮・韓国語から1言語を選択し履修します。

各言語の詳細は，I期に開講される多言語修得基礎の授業内で紹介します。

また，本冊子の「(1) 外国語の履修について」(77 ページ) も参照してください。

③ 言語の選択について

1) 文学部, 教育学部, 法学部, 情報学部 (人間・社会情報学科), 農学部の学生

I期から【初修外国語】基礎1, 基礎2を受講する, 文学部, 教育学部, 法学部, 情報学部 (人間・社会情報学科), 農学部の学生は, 入学時の履修登録の段階で, どの言語を履修するか選択する必要があります。

ただし, 各言語に開設されるクラス数に限りがあり, 希望どおりの履修ができるとは限らないので, 4月2日(水) 新入生履修ガイダンス終了後から4月3日(木) までに, それぞれの言語について第1希望から第6希望をWeb ([名古屋大学ポータル](#)) の「初修外国語」から登録してください。

希望を基に受講調整を行い, 履修言語とクラスを指定します。結果は, 4月9日(水) に[名古屋大学ポータル](#) - 「学務」 - 「履修・成績」 - 「履修登録状況確認」から確認してください。決定した授業からの変更はできません。

2) 経済学部, 情報学部 (自然情報学科, コンピュータ科学科), 医学部, 理学部, 工学部の学生

II期から【初修外国語】基礎1, 基礎2を受講する, 経済学部, 情報学部 (自然情報学科, コンピュータ科学科), 医学部, 工学部の学生は, I期の多言語修得基礎における各言語の紹介を踏まえ, II期の履修登録時にどの言語を履修するか希望を登録します。理学部の学生は, II期の【初修外国語】基礎1, 基礎2は卒業要件に算入されませんが, 進級要件単位として扱われます。

④ 各科目の紹介

1) 「多言語修得基礎」学部・学科別指定クラス, 1単位

1年生春学期 (I期) の春1期又は春2期に受講します。受講する授業を選択することなく, 学部・学科等別に次のとおり指定された授業を履修します。

春1期：月曜1限	春1期：火曜2限	春2期：月曜1限	春2期：火曜2限
経済学部 情報学部 (自然・コン) 工学部 (物工・土建)	理学部	工学部 (化生・マテ・ 電情・機航・エネ)	医学部

※詳細なクラスは, 履修登録時に[名古屋大学ポータル](#)の「教養教育院」ページで確認してください。

2) 「【初修外国語】基礎1」「【初修外国語】基礎2」受講定員：原則30名, 2単位

初修外国語としてドイツ語, フランス語, ロシア語, 中国語, スペイン語及び朝鮮・韓国語から1言語を選択し履修します。希望する言語に応じて, 受講する授業を選択することなく, 指定された授業を履修します。

3) 「【初修外国語】初級完成」「【初修外国語】中級1」「【初修外国語】中級2」「【初修外国語】中級」

受講定員：原則30名, 2単位

言語ごとに, 受講する授業を選択することなく, 指定された授業を履修します。

4) 「【初修外国語】上級」受講定員：原則30名, 2単位

【初修外国語】を深く学びたい学生向けの科目です。各学部の卒業要件に示されている科目の単位をすべて修得している場合には, 随意科目になります。

5) 「イタリア語基礎1」「イタリア語基礎2」「ポルトガル語基礎1」「ポルトガル語基礎2」

受講定員：原則として30名, 2単位

その他の言語を学びたい学生向けの科目です。随意科目であり, 卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

⑤ 複数の初修外国語を履修したい場合

【初修外国語】基礎1及び基礎2の単位を修得した段階で、異なる【初修外国語】の言語に変更を希望する場合は、変更前と変更後の言語担当教員（「⑧ 履修相談」参照）に相談してください。履修言語の変更が認められた場合は、学部・学科ごとに次のとおり変更後の言語について履修します。

変更後のクラスは、学部指定オビ以外のクラスを受講してください。

1) 文学部, 教育学部, 法学部, 情報学部 (人間・社会情報学科)

変更後の言語の【初修外国語】基礎1, 基礎2, 初級完成を履修することにより、言語の変更前と変更後に履修した科目全体をもって、初修外国語の卒業要件及び進級要件をすべて満たしたものと認められます。

2) 経済学部

変更後の言語の【初修外国語】基礎1, 基礎2を履修することにより、言語の変更前と変更後に履修した科目全体をもって、初修外国語の卒業要件及び進級要件をすべて満たしたものと認められます。

3) 上記以外の学部

複数の初修外国語の履修は卒業要件及び進級要件としては認められません。

なお、基礎1又は基礎2の単位が修得できなかった後に、異なる【初修外国語】の言語に変更を希望する場合も、変更前と変更後の言語担当教員（「⑧ 履修相談」参照）に相談してください。この場合の履修要件は当初のものと同じです。

⑥ 一つの外国語につき各期に受講できる単位数の上限 (上記④各科目の紹介における2)～3)が対象)

学部	I期	II期	III期
文学部, 教育学部, 法学部, 情報学部 (人社)	4単位	6単位-[I期の修得単位数]	8単位-[I期, II期の修得単位数]
経済学部	-	4単位	6単位-[II期の修得単位数]
情報学部(自然, コン), 医学部, 工学部	-	4単位	不足単位数
農学部	4単位	6単位-[I期の修得単位数]	不足単位数

IV期以降は、不足単位数分のみ受講できます。

⑦ 再履修

卒業に必要な単位を取得できなかった場合は、同一名称の授業を再度受講して単位を取得しなければなりません。

学部指定オビ以外の【初修外国語】の各クラスは、単位補充として履修することができます。

次に示す科目は、単位を取得できなかった場合、別の読み替え可能な科目を履修することで、卒業要件として認められます。この場合、中級1, 中級2は同じ科目を重複して履修することができます。

科目	読み替え可能な科目
中級1	中級2, 中級, 上級
中級2	中級1, 中級, 上級
中級	中級1, 中級2, 上級

⑧ 履修相談

- [ドイツ語] 山口 庸子 教員 (E-mail : k46439a@cc.nagoya-u.ac.jp)
[フランス語] 小栗栖 等 教員 (E-mail : ogurisu.hitoshi.c6@f.mail.nagoya-u.ac.jp)
[ロシア語] サヴェリエフ イゴリ 教員 (E-mail : saveliev.igor.d2@f.mail.nagoya-u.ac.jp)
[中国語] 佐野 誠子 教員 (E-mail : sano.seiko.yl@f.mail.nagoya-u.ac.jp)
[スペイン語] 志波 彩子 教員 (E-mail : a-shiba@nagoya-u.jp)
[朝鮮・韓国語] 宇都木 昭 教員 (E-mail : utsugi@nagoya-u.jp)

(4) 検定試験による単位認定制度

この制度は、英語及び初修外国語の検定試験で所定の認定又は点数を得た学生に対し、その認定又は点数に基づいて、「英語（基礎）」・「英語（中級）」・「英語（コミュニケーション）」及び初修外国語の単位を認定するものです。

① 本制度が適用される学生

2022年度以降入学生（2021年度以前入学生は、入学年度の「履修の手引」で検定試験の種類、認定単位数を確認してください。）

② 単位認定の対象となる検定試験と認定される単位数

検定試験の結果に基づいて、単位認定を受けるには、指定された検定試験のいずれかにおいて、次の表に定める認定又は点数を得なければなりません。レベル・級位に応じ、対象授業科目のうちから認定可能単位数の範囲内で認定されます。

[注意事項]

- 1) 既に当該学部の英語及び初修外国語に関する卒業に必要な単位数を充足している場合及び既に単位を修得している科目には、検定試験による単位認定は行われません。
- 2) 他大学で修得した単位は、最大で60単位まで本学の単位として認定でき、検定試験により認定される単位は、その60単位の中に含まれます。（名古屋大学通則第23条の2参照）
- 3) 検定試験による単位認定を受けた授業科目の成績評価は「T」となります。GPAには算入しません。
- 4) 検定試験の認定日又は受験日は、単位認定申請時の2年前までに限ります。

○英語

検定試験の種類（実施団体）	レベル・級位	認定対象授業科目	認定可能単位数
実用英語技能検定（公益財団法人日本英語検定協会）	一級	英語（基礎） 英語（中級） 英語（コミュニケーション）	左記の授業科目の内から、2単位（1科目）
技術英語能力検定（公益社団法人日本技術英語協会）	プロフェッショナル		
国際連合公用語英語検定試験 （公益財団法人日本国際連合協会）	A級, 特A級		
TOEFL iBT : Test of English as a Foreign Language （一般社団法人CIEE国際教育交換協議会）	88点以上		
TOEIC L&R : Test of English for International Communication Listening & Reading Test （一般財団法人国際ビジネスコミュニケーション協会）	787点以上		
ケンブリッジ英語検定 （ケンブリッジ大学英語検定機構）	C1 Advanced, C2 Proficiency		
IELTS : International English Language Testing System（公益財団法人日本英語検定協会）	7.0以上		

いづれの検定試験も、正規の公開試験の結果のみが単位認定の対象となります。

[注意] 卒業単位としての取扱いについては学部により異なります。

- 1) 検定試験の結果により単位認定を受けることができるのは、2単位です。
- 2) Cコースの学生で英語検定試験の単位認定を受けた者は、「英語（サバイバル）」の履修を免除します。
- 3) 1年次4月と12月に行われる TOEFL ITP は含まれません。

○初修外国語

言語	検定試験の種類（実施団体）	レベル・級位	認定対象授業科目	認定可能単位数
ドイツ語	ゲーテ・ドイツ語検定試験 （GOETHE INSTITUT）	A1	ドイツ語基礎 1～2 ドイツ語初級完成	4 単位
		A2, B1～C2	ドイツ語基礎 1～2 ドイツ語初級完成 ドイツ語中級 1～2 ドイツ語中級	6 単位
	ドイツ語技能検定試験 （公益財団法人ドイツ語学文学振興会）	4 級	ドイツ語基礎 1～2 ドイツ語初級完成	4 単位
		3 級～1 級	ドイツ語基礎 1～2 ドイツ語初級完成 ドイツ語中級 1～2 ドイツ語中級	6 単位
	オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験 （ÖSD）	A1	ドイツ語基礎 1～2 ドイツ語初級完成	4 単位
		A2, B1～C2	ドイツ語基礎 1～2 ドイツ語初級完成 ドイツ語中級 1～2 ドイツ語中級	6 単位
フランス語	DELTA DALF （日本フランス語試験管理センター）	DELTA A2	フランス語基礎 1～2 フランス語初級完成	4 単位
		DELTA B1～B2 DALF C1, C2	フランス語基礎 1～2 フランス語初級完成	6 単位
	実用フランス語技能検定試験 （公益財団法人フランス語教育振興協会）	3 級	フランス語基礎 1～2 フランス語初級完成	4 単位
		準2 級～1 級	フランス語基礎 1～2 フランス語初級完成	6 単位
ロシア語	ロシア語検定試験 （日本対外文化協会）	入門レベル	ロシア語基礎 1～2 ロシア語初級完成	4 単位
		基礎レベル, 第1～第4レベル	ロシア語基礎 1～2 ロシア語初級完成	6 単位
	ロシア語能力検定試験 （ロシア語能力検定委員会）	4 級	ロシア語基礎 1～2 ロシア語初級完成	4 単位
		3 級～1 級	ロシア語基礎 1～2 ロシア語初級完成	6 単位
中国語	中国語検定試験 （一般財団法人日本中国語検定協会）	4 級	中国語基礎 1～2 中国語初級完成	4 単位
		3 級～1 級	中国語基礎 1～2 中国語初級完成	6 単位
	漢語水平考試（HSK） （HSK 日本実施委員会）	4 級	中国語基礎 1～2 中国語初級完成	4 単位
		5, 6 級	中国語基礎 1～2 中国語初級完成	6 単位

スペイン語	DELE (セルバンテス文化センター)	DELE A1	スペイン語基礎 1～2 スペイン語初級完成	4 単位
		DELE A2, B1～C2	スペイン語基礎 1～2 スペイン語初級完成	6 単位
	スペイン語技能検定 (公益財団法人日本スペイン協会)	5 級	スペイン語基礎 1～2 スペイン語初級完成	4 単位
		4 級～1 級	スペイン語基礎 1～2 スペイン語初級完成	6 単位
朝鮮・韓国語	韓国語能力試験 (大韓民国教育省・国立国際教育(NIIED))	2 級	朝鮮・韓国語基礎 1～2 朝鮮・韓国語初級完成	4 単位
		3 級～6 級	朝鮮・韓国語基礎 1～2 朝鮮・韓国語初級完成	6 単位
	「ハングル」能力検定試験 (特定非営利活動法人ハングル能力検定協会)	4 級	朝鮮・韓国語基礎 1～2 朝鮮・韓国語初級完成	4 単位
		3 級～1 級	朝鮮・韓国語基礎 1～2 朝鮮・韓国語初級完成	6 単位

いずれの検定試験も、正規の公開試験の結果のみが単位認定の対象となります。

[注意] 卒業単位としての取扱いについては学部により異なりますので、注意してください。

- 1) 検定試験の結果により単位認定を受けることができるのは、最大6単位までです。
- 2) 初修外国語について、上記の表の定めるところに従い4単位の認定を受けた学生が、その後の検定試験において、6単位の認定を受けるに値する認定又は点数を得た場合には、所定の手続きを経た後、本学の単位としてさらに2単位の認定を受けることができます。ただし、一つの検定試験により単位認定を受けた上で、さらに異なる検定試験において同水準の成績を取っても、単位は加算されません。
- 3) 履修中の言語以外の言語の検定試験についても申請することが可能です。

③ 単位認定の申請

検定試験において所定の認定又は点数を得た学生が、言語文化科目の単位として認定を希望する場合は、次に示す期間に教養教育院事務室に申請してください。申請手続きについては[名古屋大学ポータル](#)の「教養教育院」ページでお知らせします。

春学期単位認定申請期間：2025年4月9日（水）～2025年4月15日（火）

秋学期単位認定申請期間：2025年10月2日（木）～2025年10月8日（水）

④ 単位認定の流れ

申請後、教養教育院で審査します。その際面接等はありません。申請書類に問題がなければ、申請した期のWeb（教務システム）の「修得科目確認(成績照会)」で単位が確認できます。

⑤ 単位認定を受けた学生に対する措置

単位認定を受けた学生には、卒業単位ないし進級単位の修得上の必要の有無にかかわらず、たとえば高度なレベルの語学能力の養成を目指す授業を受講する等の方法により、英語及び初修外国語の学習をさらに積極的に継続するよう奨励します。

(5) 日本語：外国人留学生のみ

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
日本語文章表現法	演習	2	随意科目
日本語口頭表現法	演習	2	
多文化コミュニケーション論	演習	2	
日本語総合演習 1	演習	2	
日本語総合演習 2	演習	2	
レポート・論文作成法	演習	2	

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

① 言語の選択について

「日本語」は、外国人留学生のみ履修することができます。

法学部，経済学部の外国人留学生	文学部，教育学部，情報学部，理学部，医学部，工学部，農学部の外国人留学生
日本語必修	初修外国語に代えて日本語を選択可能

② 学部・学科別履修パターン

文学部，教育学部，法学部，経済学部，情報学部（人文・社会情報学科）

I 期	II 期	III 期	IV 期
日本語文章表現法 日本語口頭表現法	多文化コミュニケーション論	日本語総合演習 1	日本語総合演習 2

情報学部（自然情報学科，コンピュータ科学科），医学部，工学部，農学部

I 期	II 期
日本語文章表現法 日本語口頭表現法	多文化コミュニケーション論

※III期以降，日本語総合演習 1，日本語総合演習 2 の各科目を随意科目として受講できます。

理学部

I 期
日本語文章表現法

※I期以降，日本語口頭表現法～日本語総合演習 2 の各科目を随意科目として受講できます。

③ 各科目の紹介

1) 「日本語文章表現法」全学部指定クラス，2 単位

3 つのクラスが開講されます。授業内容は同じですので，時間割を確認して，都合の良いクラスを履修登録してください。

2) 「日本語口頭表現法」2 単位

I 期木曜 5 限の授業です。同時間に開講される基礎セミナーと重複するので，この授業を履修する学生は，履修登録の際，木曜 5 限以外の基礎セミナーを希望して登録してください。

3) 「多文化コミュニケーション」「日本語総合演習 1」「日本語総合演習 2」各 2 単位
受講するクラスを選択して履修登録します。

4) 「レポート・論文作成法」2 単位 (2025 年度は不開講)

2 年次以上を対象に、大学で作成する日本語のレポート、論文作成法を学ぶ科目です。この科目は日本人学生も履修することができます。随意科目であり、卒業要件及び進級要件単位としては認められません。

④ 各期に受講できる単位数の上限 (卒業要件に算入される科目に限る)

学部	I 期	II 期	III 期
文学部, 教育学部, 法学部, 経済学部, 情報学部 (人社)	4 単位	6 単位-[I 期の修得 単位数]	8 単位-[I 期, II 期の 修得単位数]
情報学部 (自然, コン), 医学 部, 工学部, 農学部	4 単位	6 単位-[I 期の修得 単位数]	不足単位数
理学部	2 単位	不足単位数	不足単位数

IV 期以降は、不足単位数分のみ受講できます。

⑤ 再履修

卒業に必要な単位を取得できなかった場合は、同一名称の授業を再度受講して単位を取得しなければなりません。II 期に開講される「日本語文章表現法」及び「日本語口頭表現法」、III 期に開講される「多文化コミュニケーション論」の履修を希望する場合は、事前に「⑥ 履修相談」の教員に連絡してください。「日本語総合演習 1」「日本語総合演習 2」で単位を取得できなかった場合は、「日本語総合演習 1」又は「日本語総合演習 2」を履修することによって、またはどちらかを複数履修することによって卒業に必要な単位を取得しなければなりません。

⑥ 履修相談

〔日本語〕 佐藤 弘毅 教員 (E-mail: sato.kouki.s8@f.mail.nagoya-u.jp)

4. 健康・スポーツ科学科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
健康・スポーツ科学講義	講義	2	
健康・スポーツ科学実習 A	実習	1	
健康・スポーツ科学実習 B	実習	1	

※2025 年度開講予定種目

健康・スポーツ科学実習 A（Ⅰ期）

アルティメット、ゴルフ、サッカー、ソフトボール、太極拳、卓球、テニス、バドミントン、バレーボール、バスケット、フィットネス、アダプテッド（集中：曜日時間の指定なし）

健康・スポーツ科学実習 B（Ⅱ期）

アルティメット、サッカー、ソフトボール、太極拳、卓球、ダンス、テニス、バドミントン、バレーボール、バスケット、フィットネス、アダプテッド（集中：曜日時間の指定なし）、スキー（集中：2026年2月を予定）

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

共通基礎科目（健康・スポーツ科学科目）には、「講義」と「実習（A・B）」の2種類の授業科目があり、法学部、情報学部及び工学部を除いて、計4単位が必修です（情報学部及び工学部は2単位必修、法学部は選択）。そのためには、「講義（2単位）」1コマと「実習（1単位）」2コマをそれぞれ履修しなければなりません。

(1) 「健康・スポーツ科学講義」の履修上の注意

「健康・スポーツ科学講義」（以下「講義」という。）は、授業前にシラバスで内容をよく確認して、希望する講義（担当教員）を第6希望まで登録します。受講者が定員を超える場合には、受講学生数に余裕のあるクラスに振り分けられます。「講義」は、講義期間中に講義室を移動して体育館などで体験学習、演習などが行われることもあります。講義内容は、担当教員によって異なりますので、シラバスと第1回目の授業で内容をよく確認してください。

単位の認定は、試験（あるいはレポート）によって行われます。

(2) 「健康・スポーツ科学実習 A・B」の履修上の注意

① 種目選択

「健康・スポーツ科学実習 A・B」（以下「実習」という。）は授業前にシラバスで内容をよく確認して、希望する種目（担当教員）を第6希望まで登録します。受講希望者が各種目別の上限人数に達した場合には、抽選により種目が決定されます。第6希望までの種目に入れなかった場合には、[名古屋大学ポータル](#)の「教養教育院」ページに掲載する「履修手続きに関する注意事項」をよく確認して手続きを行ってください。

病気、ケガ、心身の不調などで通常の種目の履修が困難である場合のためにアダプテッドという種目を開講しています（詳細はシラバスを参照のこと）。アダプテッドを希望する場合には「履修手続きに関する注意事項」をよく確認して手続きを行ってください。

② ガイダンス

第1回目の授業は山の上新体育館（97-98 ページ参照）でガイダンスを行いますので、必ず参加して

ください。Ⅰ期Ⅰ年次のガイダンス時に実習カードを作成しますので、顔写真（縦4cm×横3cm）と黒の油性ボールペンを持参してください（Ⅰ期に受講せず、Ⅱ期以降に初めて「実習」を受講する場合も同様です）。

③ 成績評価と履修の取り下げ

各期に受講できる「実習」は原則1コマであり、担当教員により期ごとに出席・技能・態度等によって総合評価されます。なお、履修を取りやめる場合は「履修取り下げ届」の提出が必要で、その期限は第4回目の授業終了時点（初回ガイダンスを含む）とし、提出された場合の成績評価は「W」となります。

「実習」は、まず何よりも実践することが重要であり、したがって、休まずに授業に出席することが成績評価のための不可欠の条件です。

④ 特別受講

必修単位数を超えて「実習」の単位修得を希望する場合は、授業担当教員の許可を得た上で受講できます（必修受講の学生が定員を超える等の理由で受講が許可されない場合があります）。ただし、各期に受講できる「実習」は、上述のように原則1コマのみですので注意してください。その他の受講手続きは、必修での受講の場合と同様です。

⑤ 既往症、体調不良について

実習の授業に参加するにあたり、既往症や体調不良がある場合には、ガイダンス時あるいは各回の実習開始時に必ず教員に連絡してください。

⑥ 欠席の連絡

病気その他やむを得ない事情で欠席した、又は欠席する時は、できるだけ速やかに（1週間以内）、[TACT](#)の「メッセージ」を利用して、担当教員（宛先を間違えないこと）に連絡してください。義務制ではありませんが、無連絡欠席は恣意的な欠席として処理されます。

なお、「名阪戦」、「国立七大学総合体育大会」及び「東海地区国立大学体育大会」に参加するために欠席した場合、「実習」では欠席扱いにしないので、欠席を連絡する際にその旨を記載してください。

⑦ 授業で使用する運動・スポーツ施設

授業で使用する運動施設は、97ページを参照してください。授業は選択した各自の種目に基づいて指定された場所で行われます。

⑧ 更衣

屋外種目の授業を受ける者は、山の上複合棟（男子）及びテニスコート管理棟（女子）の更衣室を使用してください。体育館で授業を受ける者は、体育館の更衣室を利用してください。荷物はロッカーを使用してください（100円返却式）。更衣室は盗難防止のために授業開始時刻の15分前後に原則的に施錠します。

⑨ 貴重品

現金・携帯電話その他の貴重品は自己の責任で管理してください。盗難防止のためロッカーを施錠してください（100円返却式）。

⑩ 服装

服装は、運動のできる、汚れてもよいものを着用してください。なお、テニスを受講する者は、テニスシューズを履いてください。また、体育館は、土足禁止であり、必ず体育館専用の靴を使用してください。

⑪ 雨天時等の連絡

雨天時及びグラウンド状態不良時の授業場所は、[教養教育院公式X](#)（28ページ参照）で情報発信します。屋外で授業を受ける者は、グラウンド等の状態が良好でないことが予測されるときは、授業前に必ず連絡（[X](#)・[TACT](#)）を見てください。なにも連絡がないときには、平常どおり授業が行われます。休講についても同様に連絡されます。なお、各クラスでの連絡方法については第1回目授業時（ガイダンス）に担当教員から説明があります。

⑫ 駐輪場

体育館前には、バイク、自転車の乗り入れや放置はせず、所定の駐輪場・バイク置き場に止めてください。なお、山の上総合運動場地区の野球場、新体育館方面の駐輪場は自転車専用であり、バイクの駐

車は厳禁です。陸上競技場方面の駐輪場は合宿所前にあり、自転車、バイクが駐車できます。総合保健体育科学センター内の駐車場内への自動車、バイク、自転車の乗り入れは厳禁です。

近隣の住民から駐輪・駐車についての苦情が多数届いており、公道への駐輪・駐車は緊急車両や一般車両、歩行者の通行の妨げになります。自動車、バイク、自転車は公道には駐車・駐輪しないでください。駐車・駐輪禁止区域に止めていた場合には移動することがあります。

5. データ科学科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
データ科学基礎	講義	1	
データ科学基礎演習 A	演習	1	
データ科学基礎演習 B	演習	1	

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

① 学部・学科別履修パターン

学部・学科	I 期（データ科学基礎）		II 期（データ科学基礎演習）	
	春 1 期	春 2 期	秋 1 期	秋 2 期
文学部		必修	演習 A（必修）	
教育学部		必修	演習 A（必修）	
法学部		選択必修	演習 A （他の科目と合せ た中から選択必修）	
経済学部		必修		演習 A（必修）
情報学部（人社）		必修	演習 A（随意）	
情報学部（自然・コン）		必修		演習 B（随意）
理学部		必修	演習 B（必修） ※学生番号によって分かれる	演習 B（必修）
医学部（医）		必修		演習 B（必修）
医学部（保）	必修			演習 A 又は演習 B の いずれかを選択必修
工学部（化生・物工・エネ）	必修		演習 B（必修）	
工学部 （マテ・電情・機航・土建）	必修			演習 B（必修）
農学部	必修		演習 B（必修）	

② 各科目の紹介

1) 「データ科学基礎」学部・学科別指定クラス，1 単位

全学部必修（法学部のみ選択必修），クォーターで実施する科目です。学部・学科等別に指定された授業を履修します。授業は，講義室に集合せず，オンライン教材により実施されます。

2) 「データ科学基礎演習 A」学部・学科別指定クラス，1 単位

Excel，R を使用した演習です。学部・学科等別に指定されたクラスを選択して履修登録します。授業は，講義室に集合せず，オンライン教材により実施されますが，指定された授業時間内に直接質問することもできます。

3) 「データ科学基礎演習 B」学部・学科別指定クラス，1 単位

Python を使用した演習です。学部・学科等別に指定されたクラスを選択して履修登録します。授業は，講義室に集合せず，オンライン教材により実施されますが，指定された授業時間内に直接質問することもできます。

③ 再履修

卒業に必要な単位を取得できなかった場合は、Ⅲ期に開講予定の同一名称の授業（再履修クラス）を再度受講して単位を取得しなければなりません。1学期に2つのクォーターで同一科目名の授業に参加することはできません（例：データ科学基礎演習Aを秋1期と秋2期の両方で履修など）。

④ 「データ科学基礎演習A」と「データ科学基礎演習B」の両方を履修したい場合

必修として指定されている科目以外の演習科目を履修する場合、当該科目は随意科目になり、卒業要件に算入されません。随意科目としての履修を希望する場合は、他学部・他学科対象のクラスを選択し、授業担当教員にメールにより許可を得てから、履修登録の修正期間に科目を登録してください。

6. アントレプレナーシップ科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
アントレプレナーシップ初歩	講義	1	

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

① 学部・学科別履修パターン

学部・学科	Ⅱ期（アントレプレナーシップ初歩）	
	秋1期	秋2期
文学部		必修
教育学部		必修
法学部		選択必修
経済学部	必修	
情報学部（人社）		必修
情報学部（自然・コン）	必修	
理学部	必修 ※学生番号によって分かれる	必修
医学部（医）	必修	
医学部（保）	必修	
工学部（化生・物工・エネ）		必修
工学部 （マテ・電情・機航・土建）	必修	
農学部		必修

② 各科目の紹介

「アントレプレナーシップ初歩」学部・学科別指定クラス，1単位

全学部必修（法学部のみ選択必修），クォーターで実施する科目です。学部・学科等別に指定された授業を履修します。授業は，講義室に集合せず，オンライン教材により実施されます。

7. 国際理解科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
国際関係論	講義	2	2 年次以上対象
国際開発学	講義	2	//
グローバル化時代の国際社会	講義	2	//
国際学	講義	2	//
グローバル化と国際教育交流	講義	2	//
留学生と日本	講義	2	//
日本語教育実践入門	講義	2	//
囲碁と日本文化	講義	2	//
Biology in English	講義	2	//
Immigration in Japan	講義	2	//
Studium Generale A	講義	2	1 年次以上対象
Studium Generale B	講義	2	//
SML (Game theory)	講義	2	//
SML (Mathematics of quantum information theory)	講義	2	//
SML (Elementary Number Theory)	講義	2	//
SML (Differential equations and dynamical systems)	講義	2	//
英語・プレゼンテーション A1	講義	2	2 年次以上対象
英語・プレゼンテーション A2	講義	2	//
英語・プレゼンテーション B1	講義	2	//
英語・プレゼンテーション B2	講義	2	//
フランス語・アカデミックライティング A	講義	2	3 年次以上対象 (2025 年度不開講)
フランス語・アカデミックライティング B	講義	2	//
Introduction to Intercultural Competence	講義	2	1 年次以上対象
海外留学準備セミナー	講義	2	//
短期海外研修 A (北米)	演習	2	//
短期海外研修 B (北米)	演習	2	//
短期海外研修 C (欧州)	演習	2	//
短期海外研修 D (欧州)	演習	2	//
短期海外研修 E (アジア・オセアニア)	演習	2	//
短期海外研修 F (アジア・オセアニア)	演習	2	//
海外言語文化演習 (英語)	演習	2	//
海外言語文化演習 (ドイツ) 1	演習	1	//
海外言語文化演習 (ドイツ) 2	演習	1	//
海外言語文化演習 (フランス) 1	演習	1	//
海外言語文化演習 (フランス) 2	演習	1	//
海外言語文化演習 (中国) 1	演習	1	//
海外言語文化演習 (中国) 2	演習	1	//
EMI 科目	—	—	2 年次以上対象
連携開設科目	—	—	//

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



【履修に関する注意事項】

国際理解科目は、2年次以上の履修を原則としていますが、海外留学・短期海外研修に関する科目など1年次から履修可能な科目もあります。

なお、理学部1年次は、指定された時間割で、2年次以上対象の科目を履修することができます。

詳細は、履修登録の際に、[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」、「授業時間割表」を参照してください。

(1) 「短期海外研修 A～F」

短期海外研修の説明会は春学期4月、秋学期10月に開催します。参加希望者は説明会に出席し、担当教員と個別面談をした後、履修登録が可能です。説明会の日程、各研修の詳細は、海外留学室のホームページで確認してください。

https://www.iech.provost.nagoya-u.ac.jp/abroad/program/nu_oti.html

(2) 「海外言語文化演習（英語）」（2025年度は不開講）

海外協定大学が提供する語学研修プログラムに参加して語学力を向上させ、帰国後にプレゼンテーションを行うことで単位が認定されます。

(3) 「海外言語文化演習（ドイツ）」（秋学期開講予定）

① 学部指定はありませんが、言語文化科目のドイツ語を半年以上学んだ学生のみ受講できます。

② 「海外言語文化演習（ドイツ）1」は、「海外言語文化演習（ドイツ）2」（フライブルク大学での短期ドイツ語研修プログラム）に参加を希望する学生の受講が優先されます。

③ 「海外言語文化演習（ドイツ）1」を履修しない場合は、「海外言語文化演習（ドイツ）2」の単位認定はされません。

(4) 「海外言語文化演習（フランス）」（秋学期開講予定）

① 学部指定はありません。

② 「海外言語文化演習（フランス）1」は、「海外言語文化演習（フランス）2」（ストラスブール大学での短期フランス語研修プログラム）に参加希望の学生を対象としていますが、「海外言語文化演習（フランス）2」に参加しない学生の受講も可能です。

③ 「海外言語文化演習（フランス）2」への参加には、本年度春学期までの言語文化科目のフランス語科目の規定の単位をすべて修得している必要があります。

④ 「海外言語文化演習（フランス）1」を履修しない場合は、「海外言語文化演習（フランス）2」の単位認定はされません。

(5) 「海外言語文化演習（中国）」（春学期開講予定）

① 学部指定はありません。

② 「海外言語文化演習（中国）1」は、「海外言語文化演習（中国）2」（同済大学での短期中国語研修プログラム）に参加希望の学生を対象としていますが、「海外言語文化演習（中国）2」に参加しない学生の受講も可能です。

③ 「海外言語文化演習（中国）1」を履修しない場合は、「海外言語文化演習（中国）2」の単位認定はされません。

(6) 「EMI 科目」

国際プログラム群向けに英語により開講される科目を履修して単位を修得した場合、国際理解科目の単位として認定されます。対象科目の詳細や履修登録方法は、[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」を参照してください。

(7) 「連携開設科目」

連携開設科目については、「12. 東海国立大学機構による取組み」を参照してください。

8. 現代教養科目

(1) 人文・社会系

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
哲学・思想入門	講義	2	2年次以上対象
歴史学入門	講義	2	//
言語学入門	講義	2	//
文化・芸術学入門	講義	2	//
社会学入門	講義	2	//
心理学入門	講義	2	//
現代社会と教育	講義	2	//
日本国憲法	講義	2	//
法学入門	講義	2	//
政治学入門	講義	2	//
経済概論	講義	2	//
経営・会計入門	講義	2	//
連携開設科目	—	—	//

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

現代教養科目（人文・社会系）は、理系学部（情報学部〔自然情報学科，コンピュータ科学科〕，理学部，医学部，工学部，農学部）の2年次以上を対象としています。その他の学部生が受講しても卒業要件単位として認められません。

なお，理学部1年次は，指定された時間割で，2年次以上対象の科目を履修することができます。

詳細は，履修登録の際に，[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」，「授業時間割表」を参照してください。

連携開設科目については，「12. 東海国立大学機構による取組み」を参照してください。

(2) 自然系

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
物理学入門	講義	2	2年次以上対象
化学入門	講義	2	//
材料科学入門	講義	2	//
生命科学入門A	講義	2	//
生命科学入門B	講義	2	//
地球惑星科学入門	講義	2	//
大気水圏科学入門	講義	2	//
現代医学入門	講義	2	//
現代数学入門	講義	2	//
放射線と放射能	講義	2	//
連携開設科目	—	—	//

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

現代教養科目（自然系）は、文系学部（文学部、教育学部、法学部、経済学部、情報学部〔人間・社会情報学科〕）及び医学部〔医学科〕の2年次以上を対象としています。その他の学部生が受講しても卒業要件単位として認められません。

詳細は、履修登録の際に、[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」、「授業時間割表」を参照してください。

連携開設科目については、「12. 東海国立大学機構による取組み」を参照してください。

(3) 学際・融合系

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
芸術論 A	講義	2	2 年次以上対象
芸術論 B	講義	2	//
文化論・芸術論	講義	2	//
環境学入門	講義	2	//
大学でどう生きるか	講義	2	//
青年期における心の健康	講義	2	//
クリエイティブイノベーション講座	講義	2	//
キャリア形成論	講義	2	//
メディアリテラシー	講義	2	//
社会安全学	講義	2	//
ジェンダー学	講義	2	//
学問の面白さを知る	講義	2	//
名古屋大学の歴史	講義	2	//
防災減災学	講義	2	//
博物館概論	講義	2	//
科学論・技術論	講義	2	//
科学史・技術史	講義	2	3 年次以上対象
科学・技術の倫理	講義	2	//
医学と教養	講義	2	//
ライフスキル入門	講義	2	//
医療人類学	講義	2	2 年次以上対象
地域医療フィールドワーク入門	講義	2	//
社会課題解決とアントレプレナーシップ	講義	1	//
イノベーション基礎	講義	1	//
シリアル・イノベーション	演習	1	//
連携開設科目	—	—	//

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

現代教養科目（学際・融合系）は、全学部の 2 年次以上を対象としています。

一部の科目や一部のクラスは、3 年次以上を対象としています。

なお、理学部 1 年次は、指定された時間割で、2 年次以上対象の科目を履修することができます。

詳細は、履修登録の際に、[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」、「授業時間割表」を参照してください。

連携開設科目については、「12. 東海国立大学機構による取組み」を参照してください。

9. 超学部セミナー

〔授業科目表〕（2025年度開講科目）

授 業 科 目		単位数	備 考
超学部セミナー（Summer Camp）	演習	2	3年次以上対象
超学部セミナー（PBL マーケティング）	演習	2	//
超学部セミナー（めぎせソーシャルビジネス起業）	演習	2	//
超学部セミナー（現代経営学入門）	演習	2	//
超学部セミナー（医療と「地域」を考えるフィールドワーク）	演習	2	//
超学部セミナー（これからの人生のための起業論）	演習	2	//
超学部セミナー（シンガポールインターンシップ）	演習	2	//
超学部セミナー（プロジェクトマネジメント）	演習	2	//
超学部セミナー（イノベーションに携わるキャリアの探求）	演習	2	//

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

超学部セミナーは、全学部の3年次以上を対象としています。

詳細は、履修登録の際に、[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)に掲載する「履修手続きに関する注意事項」、「授業時間割表」を参照してください。

10. 人文・社会系基礎科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
哲学	講義	2	
歴史学	講義	2	
文学	講義	2	
地理学	講義	2	
社会学	講義	2	
心理学	講義	2	
比較文化論	講義	2	
宗教学・文化人類学	講義	2	
アーカイブズ学	講義	2	
教育学	講義	2	
比較教育論	講義	2	
高等教育学	講義	2	
日本国憲法	講義	2	★
法学	講義	2	★
政治学	講義	2	★
経済学	講義	2	
経営・会計	講義	2	
統計学	講義	2	

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

人文・社会系基礎科目は、文系学部（文学部，教育学部，法学部，経済学部，情報学部 [人間・社会情報学科]）を対象としています。その他の学部生が受講しても卒業要件単位として認められません。

なお、法学部の学生は、★の科目を履修しても卒業要件単位として認められません。

11. 自然系基礎科目

〔授業科目表〕

授 業 科 目		単位数	備 考
微分積分学Ⅰ	講義	2	情報学部, 理学部, 工学部, 農学部
微分積分学Ⅱ	講義	2	//
線形代数学Ⅰ	講義	2	//
線形代数学Ⅱ	講義	2	//
複素関数論	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 工学部
数学通論Ⅰ	講義	2	医学部
数学通論Ⅱ	講義	2	//
力学Ⅰ	講義	2	工学部
力学Ⅱ	講義	2	//
電磁気学Ⅰ	講義	2	理学部物理学科を志望する学生及び工学部
電磁気学Ⅱ	講義	2	//
物理学基礎Ⅰ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 農学部
物理学基礎Ⅱ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部 (物理学科を志望する学生を除く。), 医学部, 農学部
物理学実験	実験	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部 (医), 工学部, 農学部
化学基礎Ⅰ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 工学部, 農学部
化学基礎Ⅱ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 工学部, 農学部
化学実験	実験	2	情報学部 (自然), 理学部, 医学部 (医), 工学部, 農学部
生物学基礎Ⅰ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部, 農学部
生物学基礎Ⅱ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 医学部 (保), 農学部
生物学実験	実験	2	情報学部 (自然), 理学部, 医学部 (保), 農学部
地球科学基礎Ⅰ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 農学部
地球科学基礎Ⅱ	講義	2	情報学部 (自然・コン), 理学部, 農学部
地球科学実験	実験	2	情報学部 (自然), 理学部, 農学部

〔開講の目的〕

各授業科目の「開講の目的」は、教養教育院のホームページで確認してください。

<https://www.ilas.nagoya-u.ac.jp/courses.html#subject>



〔履修に関する注意事項〕

- (1) 対象学部 (学科) 以外の学生が履修しても卒業要件単位として認められません。
- (2) 医学部保健学科向けの物理学基礎Ⅰ及び化学基礎Ⅰは、「授業時間割表」等では、物理学基礎Ⅰ〔総合〕, 化学基礎Ⅰ〔総合〕と表記されています。保健学科の学生はこれらを履修すれば卒業要件単位として認められます。
- (3) 医学部保健学科以外の学生が物理学基礎Ⅰ〔総合〕及び化学基礎Ⅰ〔総合〕を履修しても卒業要件単位として認められません。
- (4) 「力学Ⅰ」又は「力学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅰ」は授業内容が重複しています。したがって、「力学Ⅰ」又は「力学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅰ」を両方履修しても一方しか卒業要件単位になりません。同様に、「電磁気学Ⅰ」又は「電磁気学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅱ」は授業内容が重複していますので、「電磁気学Ⅰ」又は「電磁気学Ⅱ」と「物理学基礎Ⅱ」を両方履修しても一方しか卒業要件単位になりません。

12. 東海国立大学機構による取組み

2020年4月、国立大学法人名古屋大学と同岐阜大学の法人統合により東海国立大学機構（以下「機構」という。）が設立されました（詳細は[機構ホームページ](#)参照）。

教育分野においては、名古屋大学と岐阜大学との間で共同できる取組を進める組織として「[アカデミック・セントラル](#)」を設け、国際通用性のある質の高い教育を実践し、東海地域をはじめ、国内外で活躍する次世代を担うリーダーとなりうる人材を育成することを目指します。当面の取組として、リベラル・アーツ教育のより一層の充実、ICTなどの新しい技術を活用した次世代型教育の導入を進めています。

教養教育院では、遠隔講義システムを活用した授業や学外で行う授業などにおいて、両大学の学生が共に参加して行う授業を提供します。また、岐阜大学の授業科目を履修して単位を修得すれば、名古屋大学の単位として認定する単位互換制度を2022年度から実施し、2023年度からは連携開設科目を開設しています。

(1) 連携開設科目

大学は必要な授業科目を自ら開設するのが原則ですが、連携開設科目は、他大学で開設された授業科目を自大学で開設したものとみなすことができる、機構に認められた特例措置です。機構の下、岐阜大学が名古屋大学と連携して開設する「岐阜大学連携開設科目」も、名古屋大学の授業科目として受講できます。ただし、卒業に必要な単位数に含めることができるのは、上限30単位までです。

開講する授業科目や履修に関する注意事項は、[名古屋大学ポータル](#)又は[教養教育院ホームページ](#)で確認してください。

(2) 単位互換科目（2025年度は不開講）

岐阜大学で開講される指定された科目を履修して合格した場合、名古屋大学の所定の科目に読み替えて単位を認定します。

1. 全学教育科目規程

制定 平成16年4月1日

名古屋大学全学教育科目規程

(趣旨)

第1条 この規程は、名古屋大学通則（平成16年度通則第1号。以下「通則」という。）第19条第7項、第20条第2項、第21条第6項、第23条の2第1項及び第3項並びに第23条の3第3項の規定に基づき、名古屋大学全学教育科目（以下「全学教育科目」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(科目区分及び内容)

第2条 全学教育科目の科目区分及び内容は、次のとおりとする。

科目区分	内容	
共通基礎科目	「自立した主体的学び」へと学習姿勢を転換し、よりよい未来社会を構築しそれを担う「勇気ある知識人」となるために、すべての学生が専門分野によらず共通に身につけるべき基礎的素養（汎用力・課題発見／解決力）を育む	
「大学での学び」基礎論	大学とは何か、大学で学ぶとはいかなることか、大学での学びを充実したものにするにはどのような知恵が必要かについて理解し、主体的な学習者としての態度の核を形成する	
基礎セミナー	少人数のセミナー形式による多面的な知的トレーニングを通じて、真理探究の面白さに触れるとともに、主体的な学びに必須の「調べ、考え、書き、話す」能力を涵養する	
言語文化科目	英語	学問の世界の共通言語、かつ国際社会で活躍するために必須の言語である英語によるコミュニケーション能力を高め、世界に通ずる窓を開く
	初修外国語	英語以外の外国語の学修を通して、多様な異文化に対する理解と寛容性を身につけ、国境を越えてよりよい未来社会の構築をめざして協同するために必須の複数外国語運用能力の基礎を築く
	日本語	日本語の能力を高め、日本の文化と社会に対する理解を深めることにより、留学生活における主体的学びのための基礎能力を身につける
健康・スポーツ科学科目	講義	健康に関する知識と自己管理能力及び運動・スポーツ習慣の必要性など、生涯スポーツの基礎となる知識を習得する
	実習	スポーツの実践を通して、運動・スポーツの楽しさを味わい、運動習慣獲得の基礎となる技能、コミュニケーション能力とリーダーシップ、チームワーク形成能力を身につける
データ科学科目	社会の様々な場面で新しい価値を生み出す基盤となるデータ分析能力を身につけるために、その基礎的知識と汎用的な分析技能を獲得する	

アントレプレナーシップ科目	アントレプレナーシップを学ぶことを通じて、社会変化によって生じた課題を迅速に捉え、知識を知恵に変え解決法を導く意識や社会で必須となる組織的行動の重要性を学ぶ	
教養科目	教養ある「勇気ある知識人」として専門知を人類社会の問題解決に活用し幸福な未来を構築していく。そのために重要な資質である「異分野・異文化に開かれた態度」「分野を超えた幅広い知識への関心」及び「自己とその専門分野を相対化する視点」を獲得する	
国際理解科目	「異文化との出会い」を契機に、世界には多様な価値観があることを認識し、近現代の国際関係に関する知識と事項の文化に関する知識を身につける。これを通じて、自らの主張を展開する力と文化的社会的な寛容性とを兼ね備えた、国際社会で活躍しうる人間に成長するための基礎を築く	
現代教養科目	人文・社会系	現代社会が抱える課題の理解を踏まえ、その課題に対する学際的・総合的分析能力を養うとともに、目指す専門分野と他分野との関連性を理解することによって、専門知の社会的役割を認識し、自らの専門分野を相対化する視点を身につける
	自然系	
	学際・融合系	
超学部セミナー	自らの目指す専門性が自覚された学部3～4年次において、異なる分野を学ぶ学生が学部・学年を超えたチームを組み、自主的に設定した課題の解決のためにみんなで考え力を合わせる主体的経験を共有する。これを通じ、リーダーシップとチームワーク、異分野への開かれた態度、多様な人々の協調による課題解決能力を身につける	
分野別基礎科目	専門分野の学習の基盤となる最も基礎的な知識と技能を身につける	
人文・社会系基礎科目	人文・社会科学系の専門分野を学んでいく基盤として、それぞれの分野における学問体系を理解し、最も基礎的な知識と技能を身につける	
自然系基礎科目	自然科学系の専門分野を学んでいく基盤として、それぞれの分野における学問体系を理解し、最も基礎的な知識と技能を身につける	

(授業科目及び単位数)

第3条 全学教育科目の授業科目、単位数等は、別表のとおりとする。

2 全学教育科目の授業科目は、前項に規定するもののほか、臨時に開設することができる。

3 前項の授業科目、単位数等は、開設の都度、別に定める。

(単位の計算)

第4条 全学教育科目の授業科目の単位の計算は、次のとおりとする。

- 一 講義及び演習は、15 時間から 30 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 実験及び実習は、30 時間から 45 時間までの範囲で定める時間の授業をもって 1 単位とする。

(履修年次)

第5条 全学教育科目の履修年次は、学部において定める。

(履修要件)

第6条 全学教育科目の履修要件は、学部規程の定めるところによる。

(履修手続)

第7条 学生は、毎学期、指定の期日までに履修しようとする授業科目について、授業担当教員の承認を得て、所属の学部長に届け出なければならない。

2 履修の届出ができる単位数の上限及び履修の届出ができる単位数に算入しない授業科目については、学部規程の定めるところによる。

(単位の認定)

第8条 授業科目の履修に係る単位の認定は、学期末試験、追試験及び再試験等(以下「試験等」という。)によるもののほか、総合的に成績評価し、合格した者には、所定の単位を与える。

2 実験及び実習については、前項の規定にかかわらず、平常の成績をもって成績評価することができる。

3 試験等を受けることのできる授業科目は、前条の規定による手続を経て授業を受けたものに限る。

(追試験)

第9条 学期末試験を受けることのできなかった者は、やむを得ない理由がある場合に限り、追試験を受けることができる。

2 追試験を受けようとする者は、学期末試験終了後、指定の期日までに、所定の願書に次の書類を添え、教養教育院長に願い出て、その許可を受けなければならない。

一 傷病により学期末試験を受けることのできなかった者は、医師の診断書

二 その他やむを得ない理由により学期末試験を受けることのできなかった者は、その証明書

(再試験)

第10条 学期末試験又は追試験を受け不合格となった授業科目のある者は、教養教育院が別に定めるところにより、当該授業科目について再試験を受けることができる。

2 再試験の成績評価は、C-又はFとする。ただし、この区分により難しいものについては、P又はNPとする。

(成績評価)

第11条 成績評価は、名古屋大学における成績評価及びGPA制度に関する規程(令和元年度規程第68号)の定めるところによる。

(検定試験の成績の取扱い)

第12条 通則第23条の2の規定に基づく検定試験は、次のとおりとする。

一 実用英語技能検定

二 技術英語能力検定

三 国際連合公用語英語検定試験

四 Test of English as a Foreign Language

五 Test of English for International Communication

六 ケンブリッジ英語検定

七 International English Language Testing System

八 ゲーテ・ドイツ語検定試験

九 ドイツ語技能検定試験

十 オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験

十一 DELF DALF

十二 実用フランス語技能検定試験

十三 ロシア語検定試験

十四 ロシア語能力検定試験

十五 中国語検定試験

十六 漢語水平考試 (HSK)

- 十七 DELE
- 十八 スペイン語技能検定
- 十九 韓国語能力試験
- 二十 「ハングル」能力検定試験
- 二十一 日本語能力試験

- 2 前項の単位の認定は、本学の単位認定審査に合格した者に行う。ただし、前項第8号から第20号までに規定する検定試験については、国際プログラム群により受け入れられた学生以外の学生を対象とし、前項第21号に規定する検定試験については、国際プログラム群により受け入れられた学生のみを対象とする。
- 3 第1項の検定試験により与えることのできる認定可能単位数及び認定対象授業科目は、次のとおりとする。

検定試験の種類	レベル・級位	言語文化科目「英語」	
		認定可能単位数	認定対象授業科目
実用英語技能検定 技術英語能力検定 国際連合公用語英語検定試験 Test of English as a Foreign Language TOEFL iBTテスト (TOEFL Internet-based Test) を受験した者 Test of English for International Communication Listening & Reading Test を受験した者 ケンブリッジ英語検定 International English Language Testing System	1級 プロフェッショナル 特A級, A級 88点以上 787点以上 C2 Proficiency, C1 Advanced 7.0以上	2単位	英語(基礎) 英語(中級) 英語(コミュニケーション)

検定試験の種類	レベル・級位	言語文化科目「初修外国語」	
		認定可能単位数	認定対象授業科目
ゲート・ドイツ語検定試験	A1	4単位	ドイツ語基礎1~2, ドイツ語初級完成
	A2, B1~C2	6単位	ドイツ語基礎1~2, ドイツ語初級完成, ドイツ語中級1~2, ドイツ語中級
ドイツ語技能検定試験	4級	4単位	ドイツ語基礎1~2, ドイツ語初級完成
	3級~1級	6単位	ドイツ語基礎1~2, ドイツ語初級完成, ドイツ語中級1~2, ドイツ語中級
オーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験	A1	4単位	ドイツ語基礎1~2, ドイツ語初級完成
	A2, B1~C2	6単位	ドイツ語基礎1~2, ドイツ語初級完成, ドイツ語中級1~2, ドイツ語中級

DELTA DALF	DELTA A2	4 単位	フランス語基礎 1～2, フランス語初級完成
実用フランス語技能検定試験	DELTA B1～B2, DALF C1, C2	6 単位	フランス語基礎 1～2, フランス語初級完成
	3 級	4 単位	フランス語基礎 1～2, フランス語初級完成
ロシア語検定試験	準 2 級～1 級	6 単位	フランス語基礎 1～2, フランス語初級完成
	入門レベル	4 単位	ロシア語基礎 1～2, ロシア語初級完成
ロシア語能力検定試験	基礎レベル, 第 1～第 4 レベル	6 単位	ロシア語基礎 1～2, ロシア語初級完成
	4 級	4 単位	ロシア語基礎 1～2, ロシア語初級完成
中国語検定試験	3 級～1 級	6 単位	ロシア語基礎 1～2, ロシア語初級完成
	4 級	4 単位	中国語基礎 1～2 中国語初級完成
漢語水平考試 (HSK)	3 級～1 級	6 単位	中国語基礎 1～2 中国語初級完成
	4 級	4 単位	中国語基礎 1～2 中国語初級完成
DELE	5 級～6 級	6 単位	中国語基礎 1～2 中国語初級完成
	DELE A1	4 単位	スペイン語基礎 1～2, スペイン語初級完成
スペイン語技能検定	DELE A2, B1～C2	6 単位	スペイン語基礎 1～2, スペイン語初級完成
	5 級	4 単位	スペイン語基礎 1～2, スペイン語初級完成
韓国語能力試験	4 級～1 級	6 単位	スペイン語基礎 1～2, スペイン語初級完成
	2 級	4 単位	朝鮮・韓国語基礎 1～2, 朝鮮・韓国語初級完成
「ハングル」能力検定試験	3 級～6 級	6 単位	朝鮮・韓国語基礎 1～2, 朝鮮・韓国語初級完成
	4 級	4 単位	朝鮮・韓国語基礎 1～2, 朝鮮・韓国語初級完成
	3 級～1 級	6 単位	朝鮮・韓国語基礎 1～2, 朝鮮・韓国語初級完成

検定試験の種類	レベル	言語文化「日本語」	
		認定可能 単位数	認定対象授業科目
日本語能力試験	N1, N2 レベル	6 単位	日本語 1, 日本語表記 1(漢字 200)

(雑則)

第13条 この規程に定めるもののほか、全学教育科目に関し必要な事項は、教育分科会の議を経て、総長が定める。

別表(第3条関係)

区分	授 業 科 目	単 位	備 考	
共通 基礎 科目	「大学での学 び」基礎論	1		
	基礎セミナー	基礎セミナー	2	
		基礎セミナーA	2	医学部医学科を対象
基礎セミナーB		2	医学部医学科を対象	
言語 文化 科目	英 語	英語 (サバイバル)	1	ただし、当該科目は随意科目の 単位として扱い、卒業に必要な 単位に認定しない。
		英語 (基礎)	2	
		英語 (中級)	2	
		英語 (コミュニケーション)	2	
		英語 (上級)	2	
		英語 (セミナー)	2	
		英語 (上級リーディング) 1	1	
		英語 (上級リーディング) 2	1	
		特別英語セミナー (資格試験英語)	2	
		特別英語セミナー (A類)	2	
		特別英語セミナー (B類)	2	
		特別英語セミナー (C類)	2	
		英語 (上級) 1	2	国際プログラム群学生を対象
		英語 (上級) 2	2	国際プログラム群学生を対象
	英語 (上級) 3	2	国際プログラム群学生を対象	
	初 修 外 国 語	多言語修得基礎	1	
		ドイツ語基礎 1	2	
		ドイツ語基礎 2	2	
		ドイツ語初級完成	2	
		ドイツ語中級 1	2	
		ドイツ語中級 2	2	
		ドイツ語中級	2	
		ドイツ語上級	2	
		フランス語基礎 1	2	
		フランス語基礎 2	2	
		フランス語初級完成	2	
		フランス語中級 1	2	
		フランス語中級 2	2	
		フランス語中級	2	
		フランス語上級	2	
		ロシア語基礎 1	2	
		ロシア語基礎 2	2	
		ロシア語初級完成	2	
ロシア語中級 1		2		
ロシア語中級 2	2			
ロシア語中級	2			
ロシア語上級	2			
中国語基礎 1	2			

	中国語基礎 2	2	
	中国語初級完成	2	
	中国語中級 1	2	
	中国語中級 2	2	
	中国語中級	2	
	中国語上級	2	
	スペイン語基礎 1	2	
	スペイン語基礎 2	2	
	スペイン語初級完成	2	
	スペイン語中級 1	2	
	スペイン語中級 2	2	
	スペイン語中級	2	
	スペイン語上級	2	
	朝鮮・韓国語基礎 1	2	
	朝鮮・韓国語基礎 2	2	
	朝鮮・韓国語初級完成	2	
	朝鮮・韓国語中級 1	2	
	朝鮮・韓国語中級 2	2	
	朝鮮・韓国語中級	2	
	朝鮮・韓国語上級	2	
	イタリア語基礎 1	2	
	イタリア語基礎 2	2	
	ポルトガル語基礎 1	2	
	ポルトガル語基礎 2	2	
日 本 語	日本語文章表現法	2	外国人留学生を対象
	日本語口頭表現法	2	外国人留学生を対象
	多文化コミュニケーション論	2	外国人留学生を対象
	日本語総合演習 1	2	外国人留学生を対象
	日本語総合演習 2	2	外国人留学生を対象
	レポート・論文作成法	2	
	日本語 1	4	国際プログラム群学生を対象
	日本語 2	4	国際プログラム群学生を対象
	日本語 3	2	国際プログラム群学生を対象
	日本語 4	2	国際プログラム群学生を対象
	日本語 5	2	国際プログラム群学生を対象
	日本語 6	2	国際プログラム群学生を対象
	日本語表記 1 (漢字 200)	2	国際プログラム群学生を対象
	日本語表記 2 (漢字 400)	2	国際プログラム群学生を対象
	アカデミック日本語 1A	2	国際プログラム群学生を対象
	アカデミック日本語 2A	2	国際プログラム群学生を対象
	アカデミック日本語 3A	2	国際プログラム群学生を対象
	アカデミック日本語 4A	2	国際プログラム群学生を対象
	アカデミック日本語 1B	2	国際プログラム群学生を対象
	アカデミック日本語 2B	2	国際プログラム群学生を対象
	アカデミック日本語 3B	2	国際プログラム群学生を対象
	アカデミック日本語 4B	2	国際プログラム群学生を対象

		アカデミック日本語 5 (漢字 2200)	2	国際プログラム群学生を対象
		ビジネス日本語 1	2	国際プログラム群学生を対象
		ビジネス日本語 2	2	国際プログラム群学生を対象
		ビジネス日本語 3	2	国際プログラム群学生を対象
		ビジネス日本語 4	2	国際プログラム群学生を対象
健康・スポーツ科学科目	講義	健康・スポーツ科学講義	2	
	実習	健康・スポーツ科学実習 A	1	
		健康・スポーツ科学実習 B	1	
データ科学科目	講義	データ科学基礎	1	
	演習	データ科学基礎演習 A	1	
		データ科学基礎演習 B	1	
アントレプレナーシップ科目		アントレプレナーシップ初歩	1	
教養科目	国際理解科目	国際関係論	2	
		国際開発学	2	
		グローバル化時代の国際社会	2	
		国際学	2	
		グローバル化と国際教育交流	2	
		留学生と日本	2	
		日本語教育実践入門	2	
		囲碁と日本文化	2	
		Studium Generale A	2	
		Studium Generale B	2	
		Biology in English	2	
		Special Mathematics Lecture		
		英語・プレゼンテーション A1	2	
		英語・プレゼンテーション A2	2	
		英語・プレゼンテーション B1	2	
		英語・プレゼンテーション B2	2	
		フランス語・アカデミックライティング A	2	
		フランス語・アカデミックライティング B	2	
		Introduction to Intercultural Competence	2	
		Immigration in Japan	2	
		海外留学準備セミナー	2	
		短期海外研修 A (北米)	2	
		短期海外研修 B (北米)	2	
		短期海外研修 C (欧州)	2	
		短期海外研修 D (欧州)	2	
		短期海外研修 E (アジア・オセアニア)	2	
		短期海外研修 F (アジア・オセアニア)	2	
		海外言語文化演習 (英語)	2	
		海外言語文化演習 (ドイツ) 1	1	
		海外言語文化演習 (ドイツ) 2	1	

現代 教養 科目		海外言語文化演習（フランス）1	1		
		海外言語文化演習（フランス）2	1		
		海外言語文化演習（中国）1	1		
		海外言語文化演習（中国）2	1		
		EMI 科目			
		JMI 科目		国際プログラム群学生を対象	
		連携開設科目			
	人文 ・ 社会系	哲学・思想入門	2		
		歴史学入門	2		
		言語学入門	2		
		文化・芸術学入門	2		
		社会学入門	2		
		心理学入門	2		
		現代社会と教育	2		
		日本国憲法	2		
		法学入門	2		
		政治学入門	2		
		経済概論	2		
		経営・会計入門	2		
		連携開設科目			
		自然系	物理学入門	2	
			化学入門	2	
	材料科学入門		2		
	生命科学入門 A		2		
	生命科学入門 B		2		
	地球惑星科学入門		2		
	大気水圏科学入門		2		
	現代医学入門		2		
	現代数学入門		2		
	放射線と放射能		2		
	物質と科学		2	国際プログラム群学生を対象	
	連携開設科目				
	学際 ・ 融合系		芸術論 A	2	
		芸術論 B	2		
		文化論・芸術論	2		
		環境学入門	2		
大学でどう生きるか		2			
青年期における心の健康		2			
ライフスキル入門		2			
クリエイティブイノベーション講座		2			
キャリア形成論		2			
メディアリテラシー		2			
社会安全学		2			
ジェンダー学		2			
学問の面白さを知る		2			
名古屋大学の歴史		2			

		防災減災学	2	
		博物館概論	2	
		科学論・技術論	2	
		科学史・技術史	2	
		科学・技術の倫理	2	
		医療人類学	2	
		地域医療フィールドワーク入門	2	
		医学と教養	2	
		社会課題解決とアントレプレナーシップ	1	
		イノベーション基礎	1	
		シリアル・イノベーション	1	
		バイオテクノロジー	2	国際プログラム群学生を対象
		連携開設科目		
	超学部セミナー	超学部セミナー		

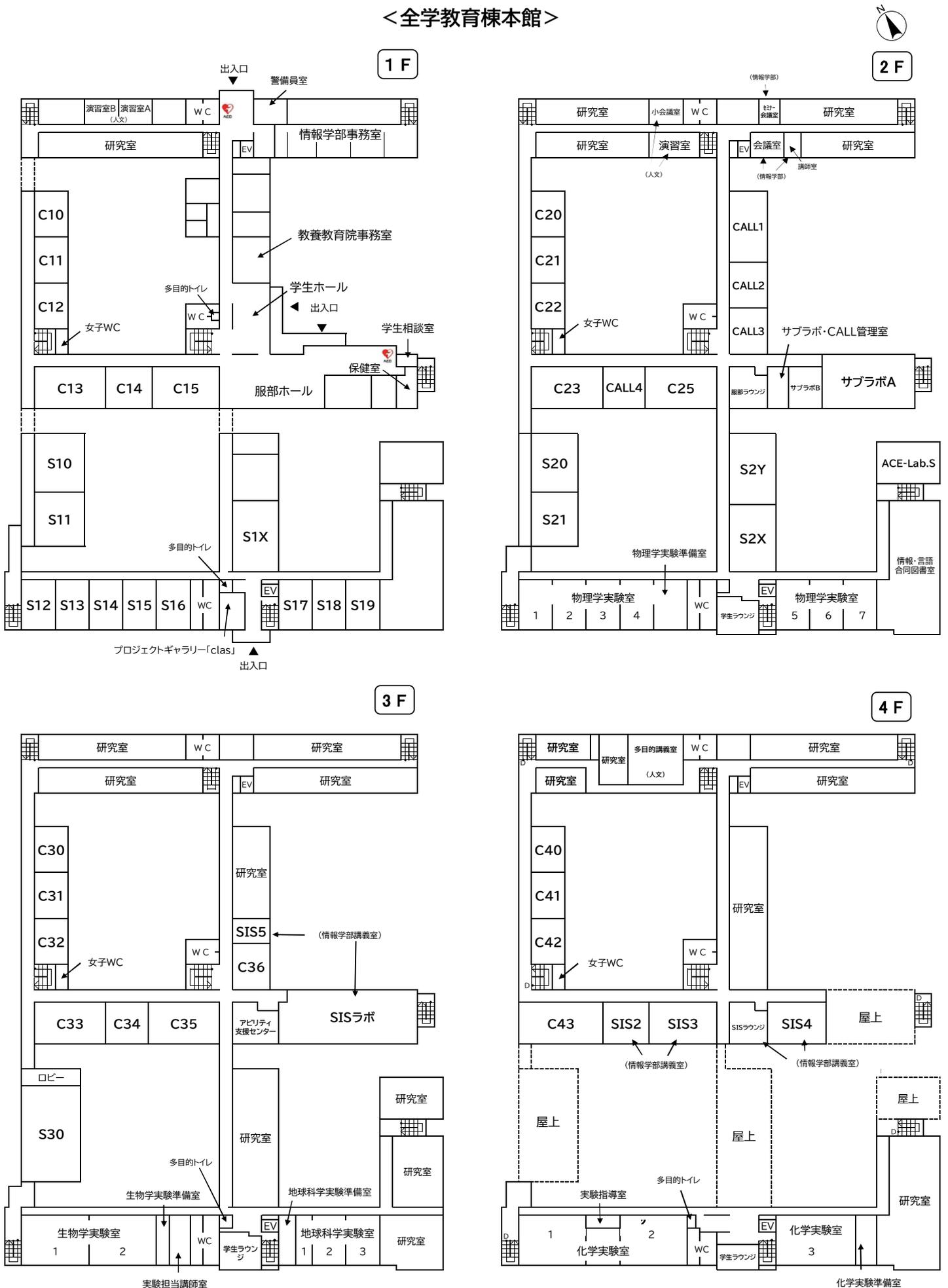
分野別基礎科目	人文・社会系基礎科目	哲学	2	
		歴史学	2	
		文学	2	
		地理学	2	
		社会学	2	
		心理学	2	
		比較文化論	2	
		宗教学・文化人類学	2	
		アーカイブズ学	2	
		教育学	2	
		比較教育論	2	
		高等教育学	2	
		日本国憲法	2	
		法学	2	
		政治学	2	
		経済学	2	
		経営・会計	2	
		統計学	2	
		研究方法論	2	国際プログラム群学生を対象
	自然系基礎科目	微分積分学Ⅰ	2	
		微分積分学Ⅱ	2	
		線形代数学Ⅰ	2	
		線形代数学Ⅱ	2	
		複素関数論	2	
		数学通論Ⅰ	2	
		数学通論Ⅱ	2	
		リメディアル数学	2	国際プログラム群学生を対象 ただし、当該科目は随意科目の単位として扱い、卒業に必要な単位に認定しない。
力学Ⅰ	2			

	力学Ⅱ	2	
	電磁気学Ⅰ	2	
	電磁気学Ⅱ	2	
	物理学基礎Ⅰ	2	
	物理学基礎Ⅱ	2	
	物理学基礎Ⅲ	2	国際プログラム群学生を対象
	物理学実験	2	
	化学基礎Ⅰ	2	
	化学基礎Ⅱ	2	
	化学実験	2	
	生物学基礎Ⅰ	2	
	生物学基礎Ⅱ	2	
	生物学実験	2	
	地球科学基礎Ⅰ	2	
	地球科学基礎Ⅱ	2	
	地球科学実験	2	

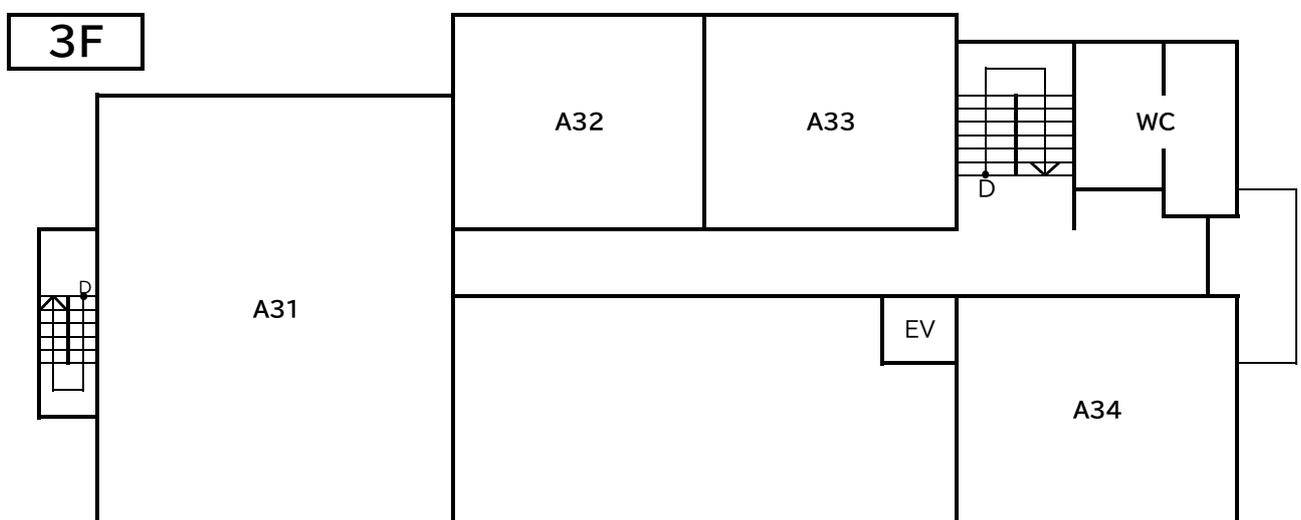
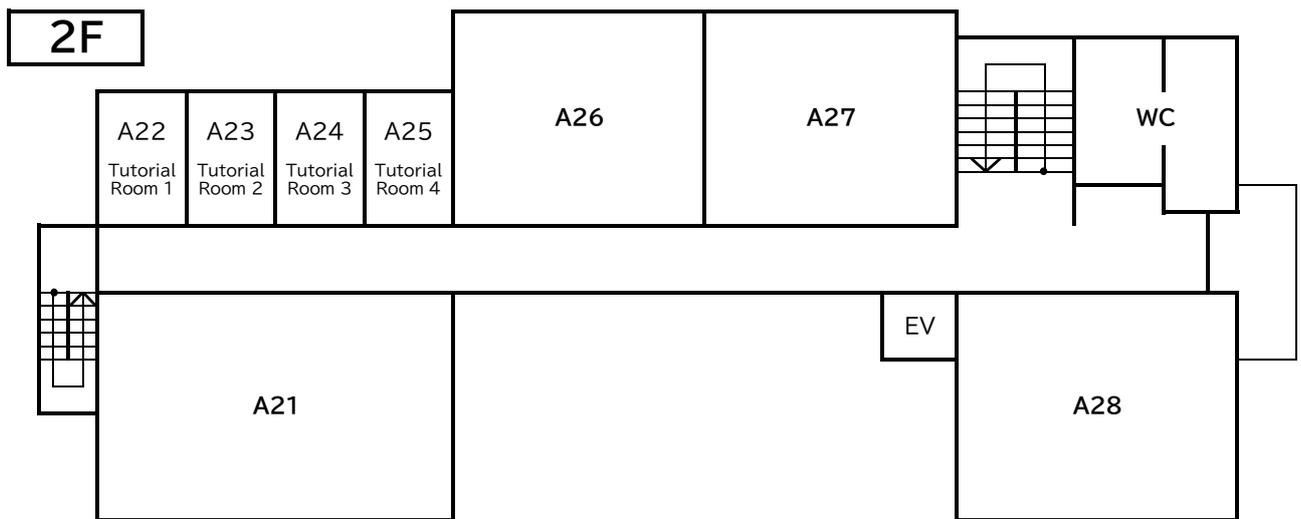
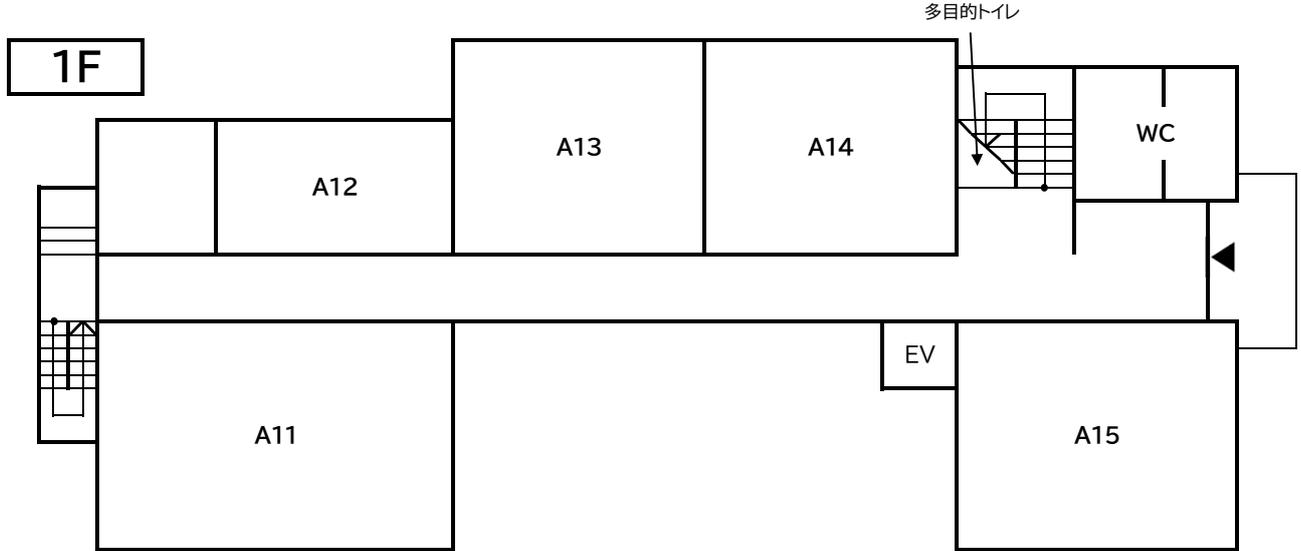
(注) 健康・スポーツ科学科目の健康・スポーツ科学実習 A 及び B に係る授業科目, 国際理解科目の Special Mathematics Lecture, EMI 科目, JMI 科目及び連携開設科目, 現代教養科目の連携開設科目並びに超学部セミナーに係る授業科目及び単位数等は, 教養教育院統括会議が別に定める。

2. 全学教育棟(本館・A館)講義室配置図

<全学教育棟本館>



<全学教育棟A館>



教養教育院大地震対応マニュアル

『教養教育院では、年間を通して防災訓練を実施します』

近い将来、東海地方に大地震が発生した場合には、全学教育棟で授業を受けている2千人余りの学生が安全かつ迅速に屋外に避難することが必要となります。

教養教育院では、地震をはじめ、不意に発生する災害等に備え、非常時に学生や教職員が冷静かつ適切な判断や指示ができ、避難時の対応が安全かつ速やかにできることを目的に、年間を通して全学教育棟における防災訓練、避難・誘導訓練等を計画・実施しています。

この教養教育院における取り組みについてご理解いただき、訓練の実施にご協力願います。

教養教育院長

名古屋大学安否確認システム(ANPIC)

機構のメールアドレスが、緊急用メールアドレスとして登録されます。いつでもどこでも受け取れるようにスマートフォン等の設定を行ってください。

https://www.saigai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=1016

災害時には安否情報を大学へ伝えてください！

登録のメールアドレスに名古屋大学安否確認システム(ANPIC)からメール(送信アドレス: no-reply@jecc.jp)が届きますので、案内に従って安否情報を入力してください。

教養教育院大地震対応マニュアル(全学教育棟)

《名古屋大学緊急地震速報システム》

東山キャンパスで震度5弱以上が予想されるときに、地震による強い揺れが起こる数十～数秒前に警報が発せられます。

緊急地震速報

放送メッセージが流れます。

NHKチャイム音につづき、「身の安全を確保してください。」

緊急地震速報を聞いたら

強い揺れが起きるまでの時間は限られています。倒壊や破損しやすいものから離れるなど、身の安全を図るための最低限の行動を取ってください。

火を消す

安全姿勢

出入口の確保



災害対策室作成
『大震災！行動マニュアル』より

【講義室】

机・イスが床に固定されている場合

イスに座ったまま机につかまる

固定されていない場合

バック等も使い、とにかく頭を守る

【階段】

踊り場へ出て安全姿勢

地震発生せず

速報の後、しばらくしても地震が来ない場合は誤報の可能性もあるが、テレビ・ラジオ・インターネットなどで情報を集め、正式な発表があるまで警戒を解かないでください。

地震発生

『地震発生時初動マニュアル』

(次ページへ)

地震発生時 初動マニュアル(全学教育棟)

地震発生

- ① **まず、身を守る！**
(器具や薬品から離れ)バッグ・教科書などで落下物から頭を守り、揺れが収まるのを静かに待ってください。
- ② **非常脱出口の確保！**
可能なら、ドア付近にいる人は、出入り口の扉を開け避難経路を確保してください。
- ③ **素早く火の始末！**
実験中など火気を使っているときは、火を消してください。

地震発生後 2～3分 (揺れが収まったら)

- ① **周囲の安全を確認！**
倒れた棚等の下敷きになっている人がいないかを確認してください。けが人の有無を確認してください。
- ② **建物の状況を確認！**
建物が傾いていないか、壁にヒビが入ったり崩れたりしていないかなどを確認してください。
- ③ **作動中の実験器具等の停止！**
- ④ **火災の状況を確認！**
火災が起きた場合、自分の安全が確保できる範囲で、落ち着いて**初期消火**してください。

地震発生後 3分

- ① **隣接する部屋で助け合う！**
他の部屋・教室等で倒れた棚等の下敷きになっている人がいないか確認してください。
- ② **余震に注意！**
建物の状況により、余震で崩壊する恐れのある場合は、大学指定の避難場所(中央図書館西側グラウンド)に避難してください。

避難が必要な場合

建物の状況により、避難が必要と判断された場合は**館内放送等により避難指示**が出されますが、館内放送等が無くても状況により担当教員が避難することが必要と判断することもあります。

避 難

担当教員の指示に従い避難してください。
日頃、**教室から非常口までのルートを確認**しておいてください。

- ① 落ち着いて避難してください。
- ② **障がい者の優先避難を支援**してください。
※ 車椅子を利用している障がい者の避難の方法など、日頃から周りの人が意識していることが大切です。
- ③ 大きな荷物は所持しないで避難してください。
- ④ **エレベーターの利用は禁止**となります。
- ⑤ 避難の途中で**立ち止まらない**ようにしてください。
- ⑥ 『**おはしも**』を実践してください。
おさない・はしらない・しゃべらない・もどらない



確 認 (教員が対応)

- ① 全員の教室退避を確認
- ② 隣接する教室の避難状況を確認
- ③ トイレの中を確認

一次避難場所へ誘導(教員が対応)

一 時 待 機

- ① 屋外に出たら、指定の**一次避難場所**で待機してください。
- ② 安全が確認できるまで教室には戻らないでください。
- ③ 余震により外壁等が落下する恐れがありますので、建物から十分な距離を置いてください。
- ④ 大学からの案内・指示に従ってください。

名古屋大学安否確認システム (ANPIC)

名古屋大学安否確認システム(ANPIC)の概要

大地震発災時における皆さんへの安否確認は、1.発災直後に建物内に取り残された人がいないかを確認するため、2.初動・応急対応がほぼ終了し、復旧対応に入った際の授業や研究活動の再開、入試、就活等、日常に戻すタイミングの判断を行うために非常に重要です。大多数の構成員の安否状況が確認を完了してからでなければ、上記2の段階に移行できません。また、無事であっても必ず返信していただく必要があります。

名古屋大学では愛知県内で、「震度5弱」以上の地震が発生した場合、気象庁から配信される地震情報をANPICが取得し、本学学生及び教職員に対し、**ANPIC送信アドレス【no-reply@jecc.jp】**から安否確認メールが自動配信されます(＜システムイメージ＞参照)。安否確認メールを受信したら、メール内にあるURL(https://anpic*jecc.jp/*****、＜安否確認メールのサンプル＞参照)へアクセスし、安否状況を報告してください(下記の3.4の方法により、URLへの直接のアクセスを回避できます)。安否報告は、なるべく早く行うことが求められますが、避難などにより、少なくとも安全を確保した後に行ってください。また、上記以外の災害発生時等においては、発生した災害による影響を鑑み、必要に応じて大学の管理者が、手動でメール配信を行います。

名古屋大学では、令和6年度より、安否確認のための第1緊急連絡先を機構メールアドレスに一本化しました。加えて、2段階認証機能がないメールアドレスへの転送は不可となっています。地震はいつでもどこでも起きるかわからないことから、安否確認メールはスマートフォン等、いつでもどこでも受け取れる体制にしておく必要があります。そこで、皆さんには、以下のいずれか、もしくは複数の方法で安否確認メールを受信できる設定をお願いします。

- 1.スマートフォン等により機構メールアドレスへ送信された安否確認メールを受信
2. ANPICサイトに名大IDでログインし、携帯やプロバイダ等で登録されたメールアドレスを第2、第3緊急連絡先として登録し、それらのメールアドレスから安否確認メールを受信
3. App Store やGoogle Play よりANPICのアプリをインストールし、アプリより安否確認メールを受信(この場合、アプリから回答可能、「スマートフォン用アプリ等の利用方法について」を参照)
4. ANPICのアプリのインストール後、LINEより安否確認メールを受信(LINEから回答可能)



アドレス指定受信の設定(ANPICからのメールが届かない場合)

携帯電話等のメールアドレスを登録した場合は、必ずANPICからのメールが受信できるようにANPIC送信アドレス【no-reply@jecc.jp】を**指定受信設定**してください。

指定受信設定方法については、下記URL(ANPICサイト)の「ANPICからの通知が届かない方へ」ご確認の上、設定をお願いします。<https://www.anpic.jp/mailinfo/>

スマートフォン用アプリ等の利用方法について

スマートフォン用アプリ等の利用によりメール内にあるURLへのアクセスを回避することができます。名古屋大学ANPIC初期設定サイト(<https://anpic-v-nagoya-u.jecc.jp/nagoya-u/regist/>)で初期設定をした上で、スマートフォンにアプリをダウンロードし設定を行ってください。

初期設定の方法やスマートフォン用アプリの利用については、災害対策室HPにある「名古屋大学安否確認システム(ANPIC)について」(https://www.saigai.nagoya-u.ac.jp/?page_id=1016)をご覧ください。

名古屋大学安否確認情報システム(ANPIC)に関する問合せ

安否確認システムの詳細については災害対策室HPをご覧ください。

また、安否確認メールが届かない場合は、災害対策室にメール等にてお問合せください。

・災害対策室 052-788-6040 またはメール dmo@seis.nagoya-u.ac.jp

・災害対策室HP <https://www.saigai.nagoya-u.ac.jp/>



ANPICについて

名古屋大学東山キャンパス

